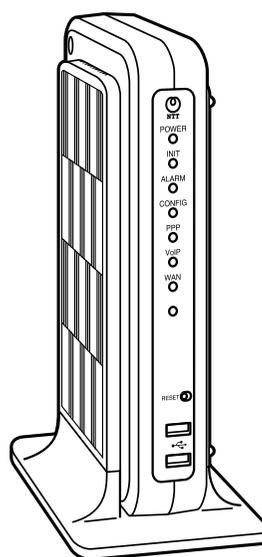


Netcommunity OG400X/800X 機能詳細ガイド

このたびは、Netcommunity OG400X/800X
をお買い求めいただきまして、まことにありが
とうございます。

- この「機能詳細ガイド」では、本商品の設
定機能について、詳細を説明しています。
- 設定操作を行う前に、この「機能詳細ガイ
ド」をよくお読みのうえ、内容を理解して
から設定を行ってください。



機能詳細ガイドの内容について

この「機能詳細ガイド」には、以下の項目を収録しています。

■Web設定画面で提供される各種の設定機能について、その詳細と設定方法を説明しています。

■ユーザ設定記入シート

【設定する】

Web設定画面の表示方法と概要を示します。

【基本設定】

ログインアカウントや時刻などを設定します。

【ルータ設定】

ルータ機能の詳細を設定します。

【電話設定】

メディア変更設定を行います。

【保守】

バージョンアップなどの保守機能を実行します。

【レポート表示】

本商品の現在の状態や各種ログを表示します。

【付録】

ユーザ設定記入シート

このページをプリントし、設定した内容を記入できます。

目次

機能詳細ガイドの内容について	2
目次	3
機能詳細ガイドの見かた	5

1 設定する

設定方法について	1-1
設定の流れ	1-1
設定画面にログインする	1-2

2 基本設定

「基本設定」について	2-1
装置名称設定	2-2
ユーザ用アカウント設定	2-3
時刻設定	2-4

3 ルータ設定

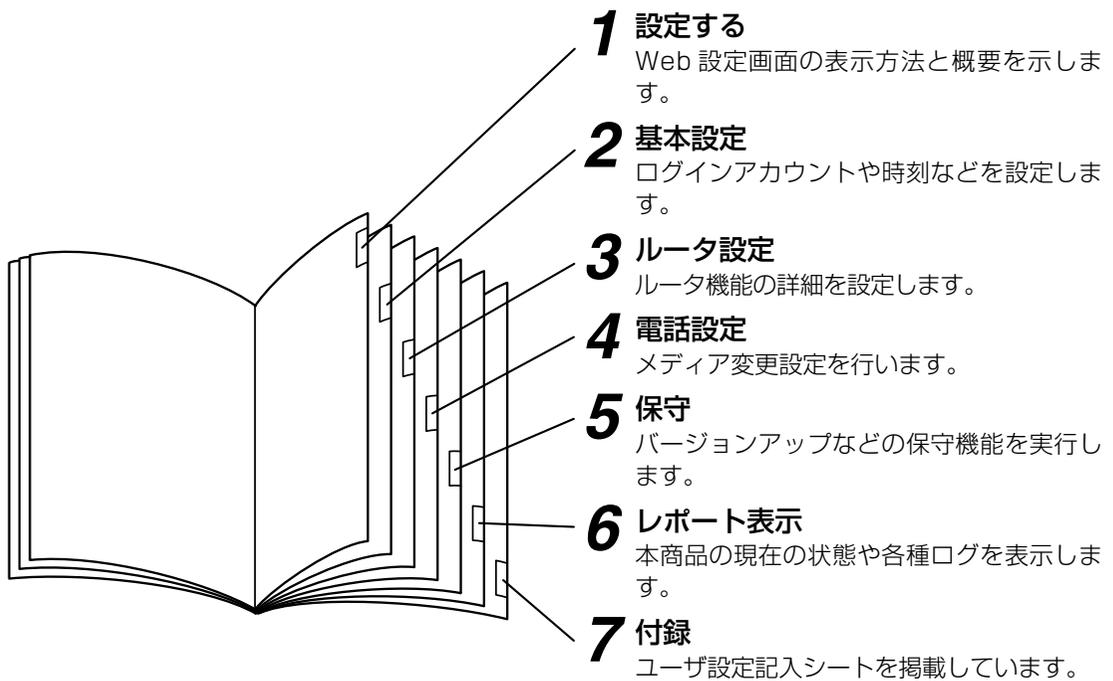
「ルータ設定」について	3-1
ルータ機能の設定を行うときの注意	3-2
リンク設定	3-3
LANインタフェース設定	3-5
WANインタフェース設定	3-8
WAN	3-8
接続先 (PPPoE)	3-10
ルーティング設定	3-13
IPv4ルーティング	3-13
IPv6ルーティング	3-17
DNS設定	3-19
DNS	3-19
ドメインルーティング	3-21
アドレス変換設定	3-24
NAT	3-24
静的IPマスカレード	3-25
静的NAT	3-27
DMZ	3-29
トランスレータ設定	3-30
フィルタリング設定	3-32
VPN設定	3-36
IPsec VPN	3-36
L2TP VPN	3-39
PPTP VPN	3-41
VPNパススルー設定	3-43
UPnP設定	3-45
ブリッジ設定	3-46
マルチキャスト配信設定	3-47

目次

QoS設定	3-48
優先制御	3-48
帯域制御	3-51
Wake on LAN設定	3-53
4 電話設定	
「電話設定」について	4-1
メディア変更設定を行う	4-1
5 保守	
「保守」について	5-1
ファームウェアをバージョンアップする	5-2
自動ファームウェア更新の設定をする	5-2
Webブラウザから手動で更新する	5-4
ローカルでファームウェアを更新する	5-6
電話機から手動で確認／更新（再起動）する	5-8
リモートマネジメント	5-10
再起動する	5-12
RESETスイッチを使って再起動する	5-12
Webブラウザから再起動する	5-12
省エネモードを解除する	5-13
6 レポート表示	
「レポート表示」について	6-1
状態表示	6-2
ログ表示	6-4
通話ログ	6-5
障害ログ	6-6
システムログ	6-7
セキュリティログ	6-8
7 付録	
ユーザ設定記入シート	7-1

機能詳細ガイドの見かた

機能詳細ガイドの構成



操作説明ページの構成

<サンプル>

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示しています。

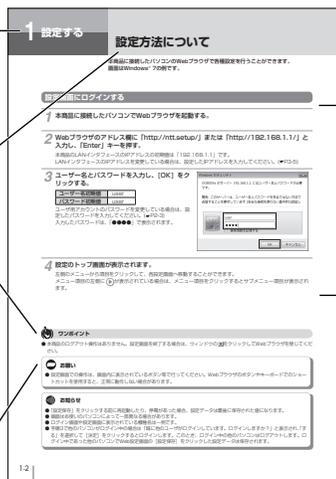
お願いまたはお知らせ
<お願い>

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。

<お知らせ>

この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

●この取扱説明書では、本商品のイラストはOG800Xaを例として記載しています。



操作手順説明
順番に操作を説明しています。

設定の流れ

本商品の電源を入れる

本商品の LAN ポートにパソコンを接続する

パソコンの電源を入れる

パソコンを設定する

取扱説明書の「7 付録」 - 「パソコンの設定」を参照して設定してください。

Web ブラウザを設定する

取扱説明書の「7 付録」 - 「Webブラウザの設定」を参照して設定してください。

設定画面にログインする (P1-2)

本商品を設定する



お知らせ

本商品は以下のOSおよびWebブラウザに対応しています。

対応OS	対応ブラウザ
Windows® 7	Internet Explorer® 8.0
Windows Vista® (SP2)	Internet Explorer® 7.0またはInternet Explorer® 8.0
Windows® XP (SP3)	Internet Explorer® 7.0またはInternet Explorer® 8.0

● 設定画面や構成は2011年5月現在のものです。ファームウェアの更新により、設定画面や構成が変わることがあります。

1 設定する

設定方法について

本商品に接続したパソコンのWebブラウザで各種設定を行うことができます。
画面はWindows® 7の例です。

設定画面にログインする

1 本商品に接続したパソコンでWebブラウザを起動する。

2 Webブラウザのアドレス欄に「http://ntt.setup/」または「http://192.168.1.1/」と入力し、「Enter」キーを押す。

本商品のLANインタフェースのIPアドレスの初期値は「192.168.1.1」です。

LANインタフェースのIPアドレスを変更している場合は、設定したIPアドレスを入力してください。(☛P3-5)

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

ユーザー名初期値	user
パスワード初期値	user

ユーザ用アカウントのパスワードを変更している場合は、設定したパスワードを入力してください。(☛P2-3)
入力したパスワードは、「●●●●」で表示されます。



4 設定のトップ画面が表示されます。

左側のメニューから項目をクリックして、各設定画面へ移動することができます。

メニュー項目の左側に▶が表示されている場合は、メニュー項目をクリックするとサブメニュー項目が表示されます。



トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
- ③ 電話設定
- ④ 保守
- ⑤ レポート表示

OG800Xa

Version	1.0.0.0
MAC Address(LAN)	00:0C:29:00:00:00
MAC Address(WAN)	00:0C:29:00:00:00

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- ・「設定保存(即時反映データを除く)」/「ローカルバージョンアップ」実施後は、再起動を行うことにより操作が有効となります。
- ・ログを保存する場合は「ログ表示」から「保存」を行ってください。「設定保存」では保存されません。
- ・ブラウザソフトのJavaScriptの設定は、必ず「有効」にしてご使用ください。

STOP お願い

- セキュリティ性を向上させるため、初期設定時にはパスワードの変更を強く推奨します。
なお、パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを登録してください。



ワンポイント

- 本商品のログアウト操作はありません。設定画面を終了する場合は、ウィンドウの  をクリックしてWebブラウザを閉じてください。



お願い

- 設定画面での操作は、画面内に表示されているボタン等で行ってください。Webブラウザのボタンやキーボードでのショートカットを使用すると、正常に動作しない場合があります。



お知らせ

- 「設定保存」をクリックする前に再起動したり、停電があった場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- ログイン画面や設定画面に表示されている機種名は一例です。
- 手順3で他のパソコンがログイン中の場合は「既に他のユーザがログインしています。ログインしますか?」と表示され、「する」を選択して「決定」をクリックするとログインします。このとき、ログイン中の他のパソコンはログアウトします。ログイン中であった他のパソコンでWeb設定画面の「設定保存」をクリックした設定データは保存されます。

「基本設定」について

「基本設定」メニューでは、以下の項目を設定します。

- 装置名称設定 (☛P2-2)
- ユーザ用アカウント設定 (☛P2-3)
- 時刻設定 (☛P2-4)

1
設定する

2
基本設定

3
ルータ設定

4
電話設定

5
保守

6
レポート表示

7
付録

装置名称設定

本商品を識別するための名称を設定します。

The screenshot shows the 'OG800Xa GW装置' (OG800Xa GW Device) settings page. The '装置名称設定' (Device Name Setting) section is active. The current device name is 'GW装置'. The page includes a '再起動' (Restart) button, a 'トップページへ戻る' (Return to Top Page) link, and a navigation menu with options like '基本設定' (Basic Settings), 'ルータ設定' (Router Settings), and '電話設定' (Phone Settings). A note at the bottom states that settings are saved immediately after clicking '設定保存' (Save Settings).

基本設定 > 装置名称設定

装置名称設定

装置名称の設定を行います。

<注意事項>
・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

再起動

トップページへ戻る

- 基本設定
 - 装置名称設定
 - ユーザ用アカウント設定
 - 時刻設定
- ルータ設定
- 電話設定

[装置設定]

装置名称 ・全角/半角10文字以内で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。
[設定保存] [元に戻す]

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [基本設定] → [装置名称設定] をクリックする。

3 [装置名称] に本商品の名称を入力する。

全角文字、半角英数字と記号（「:」「*」「/」「¥」を除く）10文字以内で入力します。
初期値：GW装置

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

ユーザ用アカウント設定

設定画面にログインするためのパスワードを変更します。
ログインIDは変更できません。

基本設定>ユーザ用アカウント設定

ユーザ用アカウント設定

ユーザ用アカウントの設定を行います。
<注意事項>
・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

ユーザ用アカウント設定

ログインID(表示のみ)	user	
新しいパスワード		・半角英数字16文字以内で入力してください。 ・パスワードなしにする場合は、空白にしてください。
新しいパスワードの確認		・半角英数字16文字以内で入力してください。 ・パスワードなしにする場合は、空白にしてください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。
[設定保存] [元に戻す]

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [基本設定] → [ユーザ用アカウント設定] をクリックする。

3 [新しいパスワード] にパスワードを入力する。

半角英数字と記号(「-」「/」「_」)で、16文字以内で入力します。
入力したパスワードは、「●●●●」で表示されます。

4 [新しいパスワードの確認] にもう一度同じパスワードを入力する。

入力したパスワードは、「●●●●」で表示されます。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、「元に戻す」をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか?」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか?」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

STOP お願い

- セキュリティ性を向上させるため、初期設定時にはパスワードの変更を強く推奨します。なお、パスワードは第三者に推測されにくいパスワードを登録してください。
- 設定したパスワードを忘れてしまうと、本商品へのログインができなくなります。パスワードは忘れないようご注意ください。万一パスワードを忘れてしまった場合には、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。

時刻設定

本商品に現在時刻を設定します。また、時刻の自動取得の有効／無効の設定ができます。

OG800Xa
GW装置

バージョン 00000000

再起動

トップページへ戻る

- ④ 基本設定
 - 装置名称設定
 - ユーザーアカウント設定
 - 時刻設定
- ④ ルータ設定
- ④ 電話設定
- ④ 保守
- ④ レポート表示

基本設定 > 時刻設定

時刻設定

時刻設定を行います。

< 注意事項 >

- ・各設定項目において、データの登録／変更／削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- ・3日以上電源OFFの状態が続くと、時刻設定が初期化されます。

[時刻設定]	2011/01/02 21:02:40	
現在時刻		
時刻入力		・日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で入力してください。 ※ YYYY=西暦 MM=月 DD=日 hh=時 mm=分 ss=秒 ※ 入力は半角数字・記号で行ってください。
[自動取得設定]		
取得機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
サーバアドレス設定方法	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動	
NTPサーバ		・サーバアドレス設定方法で「手動」を選んだ場合は、半角英数字記号254文字以内で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
「設定画面にログインする」(P1-2) の手順 1 ~ 3を行います。

2 [基本設定] → [時刻設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 時刻設定

[時刻入力]

現在時刻を半角数字と記号で、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」(YYYY: 西暦年、MM: 月、DD: 日、hh: 時(24時間制)、mm: 分、ss: 秒)の形式で入力してください。

DDとhhの間に半角スペースを入れてください。

<例>2011年4月19日10時10分10秒の場合

2011/4/19 10:10:10

時刻入力が空欄の場合は、現在時刻の変更を行いません。

■ 自動取得設定

[取得機能] (初期値: 有効)

自動取得機能を利用するかどうかを指定します。

[サーバアドレス設定方法] (初期値: 自動)

サーバアドレスの設定方法を指定します。

・自動

NTPサーバのアドレスを自動的に取得します。

・手動

NTPサーバのアドレスを手動で設定します。

[NTPサーバ] にサーバアドレスを設定してください。

[NTPサーバ]

NTPサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



お知らせ

- 自動取得設定の取得機能を「有効」に設定した場合は、時刻取得時に現在時刻が更新されます。



お願い

- 本商品の電源を切った状態が3日以上続いた場合は、設定した時刻が初期値（2011年1月1日00時00分00秒）に戻ります。現在時刻の時刻入力を行うか、自動取得設定の取得機能を「有効」に設定している場合は、時刻の自動取得を行うと時刻が設定されます。

「ルータ設定」メニューでは、以下の項目の設定ができます。

■リンク設定 (☛P3-3)

各ポートのリンク動作の設定ができます。

■LANインタフェース設定 (☛P3-5)

LAN接続の設定ができます。

■WANインタフェース設定 (☛P3-8)

WAN接続の設定とPPPoEセッションの設定ができます。

■ルーティング設定 (☛P3-13)

IPv4とIPv6について、ダイナミックルーティング機能やスタティックルーティング機能の設定ができます。

■DNS設定 (☛P3-19)

ProxyDNSやドメインルーティングの設定ができます。

■アドレス変換設定 (☛P3-24)

NAT、静的IPマスカレード、静的NAT、DMZの設定ができます。

■トランスレータ設定 (☛P3-30)

トランスレータ機能の設定ができます。

■フィルタリング設定 (☛P3-32)

パケットフィルタリング機能の設定ができます。

■VPN設定 (☛P3-36)

IPsec VPN、L2TP VPN、PPTP VPNの設定ができます。

■VPNパススルー設定 (☛P3-43)

VPNパススルー機能の設定ができます。

■UPnP設定 (☛P3-45)

UPnP機能の設定ができます。

■ブリッジ設定 (☛P3-46)

PPPoEブリッジ機能、IPv6ブリッジ機能の設定ができます。

■マルチキャスト配信設定 (☛P3-47)

マルチキャスト配信機能の設定ができます。

■QoS設定 (☛P3-48)

優先制御、帯域制御の設定ができます。

■Wake on LAN設定 (☛P3-53)

Wake on LAN機能の設定ができます。

お願い

- 設定内容を理解しないで設定を変更すると、IP電話やルータ機能が利用できなくなることがあります。

ルータ機能の設定を行うときの注意

本商品で利用するIP電話等のサービスでは、以下のプロトコルを利用しています。以下の利用プロトコルの通信が阻害されるような設定は行わないでください。また、本商品で利用するプロトコルは予告なく追加される場合がありますので、ご注意ください。

■利用プロトコル

- SIP
- RTP
- HTTP
- DHCPv4
- DHCPv6
- ICMPv6
- MLDv2



お知らせ

- 本商品のルータ機能は、設定によりON/OFFすることができます。(初期値：ON)
変更する場合は、工事担当者が行います。

リンク設定

本商品のLANポートに接続する機器がLANのオートネゴシエーションに対応していないなど、ポートのインタフェース条件を合わせる必要がある場合に設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン

[トップページへ戻る](#)

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - **リンク設定**
 - LAN インタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - トランスレータ設定
 - フォルダリンク設定
 - VPN設定
 - VPNパスルー設定

ルータ設定 > リンク設定

リンク設定

LAN/WANポートのリンク設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[リンク設定]	
LAN1ポート	自動
LAN2ポート	自動
LAN3ポート	自動
LAN4ポート	自動
WANポート	自動

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
 「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [リンク設定] をクリックする。

3 各ポートのリンク設定を指定する。
 各ポートのリンク動作を、「自動、100Mbps全二重、100Mbps半二重、10Mbps全二重、10Mbps半二重」から選択します。(初期値：自動)

- ・自動
 伝送速度/伝送モードを自動で設定します。
- ・100Mbps全二重
 伝送速度を100Mbps、伝送モードを全二重に設定します。
- ・100Mbps半二重
 伝送速度を100Mbps、伝送モードを半二重に設定します。
- ・10Mbps全二重
 伝送速度を10Mbps、伝送モードを全二重に設定します。
- ・10Mbps半二重
 伝送速度を10Mbps、伝送モードを半二重に設定します。

4 [設定保存] をクリックする。
 取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
 本商品が再起動され、設定が有効になります。

(次ページへ続きます)

お願い

- WANポートは、設定変更しないでください。通話ができなくなることがあります。
- 本商品のLANポート下部にVoIPゲートウェイ装置を接続している場合は、そのポートは設定変更しないでください。通話ができなくなることがあります。

お知らせ

- リンク設定は、必ず接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

		接続先ポート				
		自動	100Mbps 全二重	100Mbps 半二重	10Mbps 全二重	10Mbps 半二重
自 ポ ー ト	自動	○	—	○	—	○
	100Mbps全二重	—	○	—	—	—
	100Mbps半二重	○	—	○	—	—
	10Mbps全二重	—	—	—	○	—
	10Mbps半二重	○	—	—	—	○

- 1000BASE-Tをご利用の場合、リンク設定は「自動」に設定してください。

LANインタフェース設定

LANについての基本設定です。通常は、変更する必要はありません。

ルータ設定>LANインタフェース設定

LANインタフェース設定

LANインタフェースの設定を行います。
 <注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存] [元に戻す]

[基本設定]

インタフェース名	LAN	・半角英数字8文字以内で入力してください。
[IPv4アドレス設定]		
IPv4アドレス	192.168.1.1	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	24	・8～29の間で入力してください。
[IPv6アドレス払い出し設定]		
RA払い出し	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
PD払い出し	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
[DHCPv4サーバ設定]		
DHCPv4サーバ機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
割り付け先頭アドレス	192.168.1.100	・IPv4アドレスを入力してください。 ・指定されたアドレスから自動で64個のアドレスが割り付けられます。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [LANインタフェース設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 基本設定

[インタフェース名] (初期値：LAN)

LANインタフェースの名称を入力します。半角英数字と記号〔-〕〔/〕〔_〕8文字以内で入力します。

■ IPv4アドレス設定

[IPv4アドレス] (初期値：192.168.1.1)

本商品のLAN側IPアドレスを入力します。

[マスク長] (初期値：24)

サブネットマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：8～29

■ IPv6アドレス払い出し設定

[RA払い出し] (初期値：有効)

RA払い出し機能を利用するかどうかを指定します。

[PD払い出し] (初期値：有効)

PD払い出し機能を利用するかどうかを指定します。

■ DHCPv4サーバ設定

[DHCPv4サーバ機能] (初期値：有効)

DHCPv4サーバ機能を利用するかどうかを指定します。

[割り付け先頭アドレス] (初期値：192.168.1.100)

LANに接続された端末に払い出すIPアドレスの先頭アドレスを設定します。
「IPv4アドレス設定」に設定したIPアドレスと同じネットワークのアドレスを指定してください。

[リース時間] (初期値：4時間)

払い出したIPアドレスのリース時間を設定します。
設定範囲：1～48（時間）

[プライマリDNSサーバアドレス] (初期値：192.168.1.1)

LANに接続された端末用のプライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

LANに接続された端末用のセカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[デフォルトゲートウェイ] (初期値：192.168.1.1)

LANに接続された端末用のデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

[プライマリWINSサーバアドレス]

LANに接続された端末用のプライマリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリWINSサーバアドレス]

LANに接続された端末用のセカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

■ DHCPv4固定割付テーブル

LANに接続された端末に固定のIPアドレスを割り付けたい場合に設定します。

[IPアドレス]

LANに接続された端末に割り付けるIPアドレスを設定します。

[MACアドレス]

IPアドレスを割り付ける端末のMACアドレスを設定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

STOP お願い

- 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」に、WAN側IPアドレスと同じアドレスを設定しないでください。本商品が正常に動作しません。
- 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」に設定したアドレスと、プラス1したアドレスは本商品で利用します。LANポートへ接続する装置ではプラス1したアドレスを利用しないでください。
(例) 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」を「192.168.1.1」に設定した場合、「192.168.1.2」を利用しないでください。

お知らせ

- 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」は、ネットワークアドレス、ネットワークブロードキャストアドレス、ネットワークブロードキャストアドレスからマイナス1したアドレスは設定できません。
- LANインタフェースの設定は、以下のIPアドレスとマスク長の組み合わせでご利用ください。

クラス	IPアドレス	マスク長
クラスA	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255	8 ~ 29
クラスB	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255	16 ~ 29
クラスC	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255	24 ~ 29

- 「インタフェース名」の設定は、「設定保存」をクリックすると有効になります。
- 「DHCPv4固定割付テーブル」の「IPアドレス」は、「DHCPv4サーバ設定」の「割り付け先頭アドレス」から64番目までのIPアドレスと同じIPアドレスは設定できません。

WANインタフェース設定

接続先の設定です。以下の項目を設定します。

- ・WAN
- ・接続先 (PPPoE)

WAN

WAN接続を行う場合に設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン 1.0.0

再起動

ルータ設定 > WANインタフェース設定 > WAN

WAN

WAN接続の設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 [元に戻す](#)

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WAN インタフェース設定
 - WAN
 - 接続先 (PPPoE)
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - トランスレータ設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPNパスルー設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定
 - マルチキャスト 配信設定
 - QoS設定
 - Wake on LAN設定
- ③ 電話設定
- ④ 保守
- ⑤ レポート表示

WAN設定
[基本設定]

インタフェース名	WAN	・半角8文字以内で入力してください。
[IPv4アドレス設定]		
アドレス設定方法	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 無効	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・8~30の間で入力してください。
デフォルトゲートウェイアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
DHCPv4経路情報ルーティング	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
[IPv6アドレス設定]		
アドレス設定方法	<input type="radio"/> PD <input type="radio"/> RA <input type="radio"/> 無効	
プライマリDNSサーバアドレス	<input type="text"/>	・IPv6アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバアドレス	<input type="text"/>	・IPv6アドレスを入力してください。
[セキュリティ設定]		
ステルスモード	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
ステートフル・インスペクション	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
攻撃検出	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 [元に戻す](#)

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1~3を行います。

2 [ルータ設定] → [WANインタフェース設定] → [WAN] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 基本設定

【インタフェース名】(初期値: WAN)

WANインタフェースの名称を入力します。半角英数字と記号(「-」「/」「_」)8文字以内で入力します。

■ IPv4アドレス設定

【アドレス設定方法】(初期値: 自動)

IPアドレスの設定方法を指定します。ひかり電話オフィスタイプ(フレッツ 光ネクスト)またはひかり電話オフィスA(エース)をご利用の場合は、「自動」に設定してください。

- ・自動
IPアドレスを自動的に取得します。
- ・手動
固定IPアドレスを手動で設定します。
- ・無効
WAN側IPアドレスを設定しません。

【IPアドレス】

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、固定IPアドレスを入力します。

[マスク長]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、サブネットマスクのビット数を表す数値を入力します。

[デフォルトゲートウェイアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

[プライマリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、プライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[DHCPv4経路情報ルーティング] (初期値：有効)

「アドレス設定方法」で「自動」を選択した場合に、DHCPの経路情報でルーティングするかどうかを指定します。

■ IPv6アドレス設定**[アドレス設定方法] (初期値：PD)**

WAN側IPアドレスの設定方法を指定します。ひかり電話オフィスタイプ（フレッツ 光ネクスト）またはひかり電話オフィスA（エース）をご利用の場合は、「PD」に設定してください。

- ・ PD
PD払い出しにより、WAN側IPv6アドレスを自動的に取得します。
- ・ RA
RA払い出しにより、WAN側IPv6アドレスを自動的に取得します。
- ・ 無効
WAN側IPv6アドレスを設定しません。

[プライマリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「RA」を選択した場合に、プライマリDNSサーバのIPv6アドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「RA」を選択した場合に、セカンダリDNSサーバのIPv6アドレスを設定します。

■ セキュリティ設定**[ステルスモード] (初期値：有効)**

ステルスモード機能を利用するかどうかを指定します。

[ステートフル・インスペクション] (初期値：有効)

ステートフル・インスペクション機能を利用するかどうかを指定します。

[攻撃検出] (初期値：有効)

攻撃検出機能を利用するかどうかを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。**6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。****7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。**
本商品が再起動され、設定が有効になります。**お知らせ**

- [インタフェース名] の設定は、「設定保存」をクリックすると有効になります。
- 「マスク長」は、WAN側ネットワークのサブネットマスクに合わせて設定してください。
- 複数固定IPサービスの詳細については、契約プロバイダにお問い合わせください。

接続先 (PPPoE)

最大5個までのPPPoEセッションを設定できます。
プロバイダの接続設定など、主に使用するセッションはNo.1に設定してください。

OG800Xa
GW装置

バージョン [不明]

[再起動](#)

[トップページへ戻る](#)

- ① 基本設定
- ② **ルータ設定**
 - ① リンク設定
 - ② LAN インタフェース設定
 - ③ **WAN インタフェース設定**
 - ① WAN
 - ② **接続先 (PPPoE)**
 - ③ ルーティング設定

ルータ設定 > WANインタフェース設定 > 接続先 (PPPoE)

接続先 (PPPoE)

PPPoEセッションの設定を行います。

[PPPoE設定]

No.	インタフェース名	セッション	ユーザ名	編集
1	PPP1	無効		編集
2	PPP2	無効		編集
3	PPP3	無効		編集
4	PPP4	無効		編集
5	PPP5	無効		編集

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(☛P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [WANインタフェース設定] → [接続先 (PPPoE)] をクリックする。

3 設定を行なうインタフェースの [編集] をクリックする。

OG800Xa
GW装置

バージョン [不明]

[再起動](#)

[トップページへ戻る](#)

- ① 基本設定
- ② **ルータ設定**
 - ① リンク設定
 - ② LAN インタフェース設定
 - ③ **WAN インタフェース設定**
 - ① WAN
 - ② **接続先 (PPPoE)**
 - ③ ルーティング設定
 - ④ DNS設定
 - ⑤ アドレス変換設定
 - ⑥ トランスレータ設定
 - ⑦ フィルタリング設定
 - ⑧ VPN設定
 - ① VPNバスターール設定
 - ② UPnP設定
 - ③ アドレス設定
 - ④ マルチキャスト配信設定
 - ⑤ QoS設定
 - ⑥ Wake on LAN設定
- ③ 電話設定
- ④ 保守
- ⑤ レポート表示

ルータ設定 > WANインタフェース設定 > 接続先 (PPPoE)

接続先 (PPPoE)

PPPoEセッションの設定を行います。

<注意事項>
・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

PPPoEセッション1

[基本設定]

インタフェース名	PPP1	・半角8文字以内で入力してください。
セッション	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
接続モード	<input type="radio"/> 常時接続 <input type="radio"/> 要求時接続	

[認証設定]

ユーザ名	<input type="text"/>	・半角255文字以内で入力してください。
パスワード	<input type="text"/>	・半角255文字以内で入力してください。

[IPv4アドレス設定]

アドレス設定方法	自動	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。

[セキュリティ設定]

MTU値	1454	・576～1492の間で入力してください。
MRU値	1492	・576～1492の間で入力してください。
ステルスモード	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
ステートフル・インスベクション	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
攻撃検出	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

4 各項目を設定する。

■ 基本設定

[インタフェース名] (初期値：PPP1～PPP5)

インタフェースの名称を入力します。半角英数字と記号（「-」「/」「_」）8文字以内で入力します。

[セッション] (初期値：無効)

設定を有効にするには、「有効」をクリックして選択します。

[接続モード] (初期値：セッション1は常時接続) (セッション2～5は要求時接続)

PPPoEセッションの接続モードを指定します。

- ・常時接続
常に接続します。
- ・要求時接続
WAN側にインターネットアクセスしたときに、接続を開始します。

■ 認証設定

[ユーザ名]

プロバイダから指定されたPPPoE認証用のIDを半角英数字と記号（「:」「"」「'」「¥」「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

[パスワード]

プロバイダから指定されたPPPoE認証用のパスワードを半角英数字と記号（「:」「"」「'」「¥」「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

■ IPv4アドレス設定

[アドレス設定方法] (初期値：自動)

IPアドレスの取得方法を指定します。

- ・自動
プロバイダから自動的に割り当てられるIPアドレスを使用する場合に選択します。プロバイダから特に指定がない限りは、「自動」を選択します。
- ・手動
固定IPアドレスサービスを使用して、グローバルIPアドレスが指定されている場合に選択します。
- ・unnumbered
プロバイダから割り当てられた複数のグローバルIPアドレスを、本商品および本商品に接続されたパソコン等にそれぞれ設定する場合に選択します。

[IPアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

[プライマリDNSサーバアドレス]

プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

■ セキュリティ設定

[MTU値] (初期値：1454)

1回の転送で送信できるデータの最大値を設定します。
設定範囲：576 ~ 1492

[MRU値] (初期値：1492)

1回の転送で受信できるデータの最大値を設定します。
設定範囲：576 ~ 1492

[ステルスモード] (初期値：有効)

[ステートフル・インスペクション] (初期値：有効)

ステルスモード機能を利用するか機能を利用しないかを指定します。

[攻撃検出] (初期値：有効)

攻撃検出機能を利用するかどうかを指定します。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。



お願い

- セキュリティ設定を変更すると本装置のセキュリティレベルが低下し、本装置が危険にさらされる可能性がありますので、設定をする際にはパスワードを変更する等のセキュリティ対策を行い、十分にご注意ください。
- 050IP電話用のPPPoE設定をしている場合は、設定を変更しないでください。050IP電話が利用できなくなることがあります。



お知らせ

- [アドレス設定方法] を「unnumbered」に設定する場合は、下記設定を行う必要があります。
 - ・ [IPv4アドレス設定] の [プライマリDNSサーバアドレス]
 - ・ [IPv4アドレス設定] の [セカンダリDNSサーバアドレス]
 - ・ [LANインタフェース設定] (☞3-5) の [IPv4アドレス設定] の [IPアドレス] と [マスク長]
 - ・ [LANインタフェース設定] (☞3-6) の [DHCPv4サーバ設定] の [DHCPv4サーバ機能] を「無効」に設定 ・ [アドレス変換設定] (☞3-24) の [NAT設定] の [有効] のチェックを外す。
 - ・ [フィルタリング設定] (☞3-33) の [条件設定] の [フィルタ種別] を「許可」に設定

ルーティング設定

IPv4とIPv6について、ダイナミックルーティング機能やスタティックルーティング機能の設定ができます。
LAN内に他のルータを接続してサブネットワークを構成している場合などに、あらかじめルーティングテーブルにルーティング情報を設定します。

IPv4ルーティング

IPv4ルーティングを設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ① リンク設定
 - ② LANインタフェース設定
 - ③ WANインタフェース設定
 - ④ ルーティング設定
 - ① IPv4ルーティング
 - ② IPv6ルーティング
 - ⑤ DNS設定
 - ⑥ アドレス変換設定
 - ⑦ トランスレータ設定
 - ⑧ フィルタリング設定
 - ⑨ VPN設定
 - ⑩ VPNバスター設定
 - ⑪ UPnP設定
 - ⑫ フォルダ設定
 - ⑬ メールキャスト配信設定
 - ⑭ QoS設定
 - ⑮ Wake on LAN設定
- ③ 電話設定
- ④ 保守
- ⑤ レポート表示

ルータ設定 > ルーティング設定 > IPv4ルーティング

IPv4ルーティング

IPv4ルーティングの設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[デフォルトルート設定]

ルーティング先	PPP1	
ルーティング先IPアドレス		・ルーティング先で「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv4アドレスを入力してください。

[ダイナミックルーティング設定]

ダイナミックルーティング機能 有効 無効

送信設定	RIPv1	
受信設定	RIPv1 / RIPv2	
認証方式	なし	
認証テキスト		・認証方式で「テキスト認証」を選択した場合は、半角16文字以内で入力してください。
認証キー		・認証方式で「MD5認証」を選択した場合は、半角64文字以内で入力してください。

[スタティックルーティング設定]

スタティックルーティング機能 有効 無効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

スタティック宛先ルート

[宛先ルーティングテーブル]

No.	宛先IPアドレス / マスク長	No.	ゲートウェイ	編集	削除
1			PPP1	編集	削除
2			PPP1	編集	削除
3			PPP1	編集	削除
4			PPP1	編集	削除
5			PPP1	編集	削除
6			PPP1	編集	削除
7			PPP1	編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv4ルーティング] をクリックする。

STOP お願い

- WANポートで通信している状態でルーティング設定を変更する場合、動作条件により「設定保存」をクリックしても設定が即時有効にならないことがあります。このような場合は、「再起動」をクリックし、再起動してください。

(次ページへ続きます)

3 各項目を設定する。

■ デフォルトルート設定

[ルーティング先] (初期値：PPP1)

ルーティング先を指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
「WANインタフェース」の「接続先 (PPPoE)」に設定したセッションをデフォルトルートに設定する場
合に選択します。
- ・ WAN
「WANインタフェース」の「WAN」に設定した接続先をデフォルトルートに設定する場
合に選択します。
- ・ IPアドレス指定
デフォルトルートをIPアドレスで指定する場
合に選択します。次の [ルーティング先IPアドレス] にIPアド
レスを設定してください。

[ルーティング先IPアドレス]

[ルーティング先] で「IPアドレス指定」を選択した場合に、デフォルトルートに設定するIPアドレスを入力
します。

■ ダイナミックルーティング設定

[ダイナミックルーティング機能] (初期値：無効)

ダイナミックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [送信設定]、[受信設定]で設定した内容が有効となります。

[送信設定] (初期値：RIPv1)

ルーティング情報の送信方法を指定します。

- ・ 送信しない
- ・ RIPv1
- ・ RIPv2

[受信設定] (初期値：RIPv1/RIPv2)

ルーティング情報の受信方法を指定します。

- ・ 受信しない
- ・ RIPv1
- ・ RIPv2
- ・ RIPv1/RIPv2

[認証方式] (初期値：なし)

認証方式を指定します。

「テキスト認証」を選択した場合は、[認証テキスト] で設定した内容が有効となります。

「MD5認証」を選択した場合は、[認証キー] で設定した内容が有効になります。

- ・ なし
- ・ テキスト認証
- ・ MD5認証

[認証テキスト]

認証テキストを設定します。半角英数字と記号（「:」「"」「'」「¥」「スペース」を除く）16文字以内で入力します。

[認証キー]

認証キーを設定します。半角英数字と記号（「:」「"」「'」「¥」「スペース」を除く）64文字以内で入力します。



お知らせ

- 同一ネットワークにおいて、[認証方式]の設定は統一してください。
- [送信設定]、[受信設定] 共に「RIPv2」を選択したとき以外は、[認証方式]は「なし」に設定してください。

■ スタティックルーティング設定

[スタティックルーティング機能] (初期値：有効)

スタティックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「宛先ルーティングテーブル」と「送信元ルーティングテーブル」で設定した内容が有効となります。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

■ 「宛先ルーティングテーブル」を編集するには

スタティックIPv4宛先ルートの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

宛先ルーティングテーブル1

[宛先ルーティング設定]

宛先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・1～32の間で入力してください。
ゲートウェイ	PPP1	
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>	・ゲートウェイで「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 設定のトップ画面から、[ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv4ルーティング] をクリックする。

2 「宛先ルーティングテーブル」で、編集する項目の [編集] をクリックする。

3 次の各項目を設定する。

■ 宛先ルーティング設定

[宛先IPアドレス]

宛先のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

宛先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：1～32

[ゲートウェイ] (初期値：PPP1)

ゲートウェイを指定します。

- ・PPP1～PPP5
- ・WAN
- ・IPアドレス指定

[ゲートウェイIPアドレス]

[ゲートウェイ] で「IPアドレス指定」を選択した場合には、ゲートウェイに指定するIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

● 「宛先ルーティングテーブル」を削除するには

①手順2の「宛先ルーティングテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。

②確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。

削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

■ 「送信元ルーティングテーブル」を編集するには

スタティックIPv4送信元ルートの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

送信元ルーティングテーブル1

[送信元ルーティング設定]

送信元IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・8～32の間で入力してください。
ゲートウェイ	PPP1	
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>	・ゲートウェイで「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 設定のトップ画面から、[ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv4ルーティング] をクリックする。

2 「送信元ルーティングテーブル」で、編集する項目の [編集] をクリックする。

3 次の各項目を設定する。

■ 送信元ルーティング設定

[送信元IPアドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信元IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：8～32

[ゲートウェイ] (初期値：PPP1)

ゲートウェイを指定します。

- ・ PPP1～PPP5
- ・ WAN
- ・ IPアドレス指定

[ゲートウェイIPアドレス]

[ゲートウェイ] で「IPアドレス指定」を選択した場合に、ゲートウェイに指定するIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

- 「送信元ルーティングテーブル」を削除するには
 - ① 手順2の「送信元ルーティングテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。
 削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

IPv6ルーティング

IPv6ルーティングを設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン 再起動

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WAN インタフェース設定
 - ルーティング設定
 - IPv4ルーティング
 - IPv6ルーティング
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - トランスレータ設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPNバスマスルー設定
 - UPnP設定
 - プリッジ設定

ルータ設定 > ルーティング設定 > IPv6ルーティング

IPv6ルーティング

IPv6ルーティングの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[ダイナミックルーティング設定]

ダイナミックルーティング機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
送信設定	<input type="radio"/> 送信する <input checked="" type="radio"/> 送信しない
受信設定	<input type="radio"/> 受信する <input checked="" type="radio"/> 受信しない

[スタティックルーティング設定]

スタティックルーティング機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
----------------	--

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

設定保存 元に戻す

スタティックルーティング

[スタティックルーティングテーブル]

No.	宛先IPアドレス / マスク長	ゲートウェイ	編集	削除
1			編集	削除
2			編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv6ルーティング] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ ダイナミックルーティング設定

[ダイナミックルーティング機能] (初期値：無効)

ダイナミックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [送信設定]、[受信設定] で設定した内容が有効となります。

[送信設定] (初期値：送信する)

ルーティング情報を送信するかどうかを指定します。

[受信設定] (初期値：受信する)

ルーティング情報を受信するかどうかを指定します。

■ スタティックルーティング設定

[スタティックルーティング機能] (初期値：有効)

スタティックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「スタティックルーティング」にしたがってルーティングを行います。

■ スタティックルーティング

[スタティックルーティング機能] で「有効」を選択した場合に、「スタティックルーティングテーブル」の設定内容が有効となります。

(次ページへ続きます)

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

■ 「スタティックルーティングテーブル」を編集するには

スタティックIPv6ルーティングの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

スタティックルーティングテーブル1

[ルーティング設定]

宛先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・1～128の間で入力してください。
ゲートウェイ	WAN	
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>	・ゲートウェイで「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv6アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 設定のトップ画面から、[ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv6ルーティング] をクリックする。

2 「スタティックルーティングテーブル」で、編集する項目の [編集] をクリックする。

3 次の各項目を設定する。

■ ルーティング設定

[宛先IPアドレス]

宛先のIPv6アドレスを入力します。

[マスク長]

宛先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：1～128

[ゲートウェイ] (初期値：WAN)

ゲートウェイを指定します。

- ・ LAN
- ・ WAN
- ・ IPアドレス指定

[ゲートウェイIPアドレス]

[ゲートウェイ] で「IPアドレス指定」を選択した場合に、ゲートウェイに指定するIPv6アドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

● 「スタティックルーティングテーブル」を削除するには

- ①手順2の「スタティックルーティングテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。
 - ②確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。
- 削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

ProxyDNSやドメインルーティングを設定します。

DNS

ProxyDNSを設定します。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [DNS設定] → [DNS] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ ProxyDNS設定

[ProxyDNS機能] (初期値：有効)

■ デフォルト問い合わせ先

[DNSv4問い合わせ] (初期値：PPP1)

IPv4のデフォルト問い合わせ先を指定します。

・ PPP1 ～ PPP5

「WANインタフェース」の「接続先 (PPPoE)」に設定したセッションをデフォルトの問い合わせ先に設定する場合に選択します。

・ WAN

「WANインタフェース」の「WAN」に設定した接続先をデフォルトの問い合わせ先に設定する場合に選択します。

[DNSv6問い合わせ] (初期値：WAN)

IPv6のデフォルト問い合わせ先を指定します。[WANのみ選択可]

・ WAN

「WANインタフェース」の「WAN」に設定した接続先をデフォルトの問い合わせ先に設定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

(次ページへ続きます)

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

ドメインルーティング

ドメインルーティングを設定します。

[トップページへ戻る](#)

ドメインルーティング機能を無効に設定します。
よろしければ「設定保存」ボタンをクリックしてください。

① 基本設定

① ルータ設定

- リンク設定
- LAN インタフェース設定
- WAN インタフェース設定
- ルーティング設定
- DNS設定
- DNS

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効となります。

[設定保存](#)

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [DNS設定] → [ドメインルーティング] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[ドメインルーティング機能] (初期値：無効)

ドメインルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「ドメインルーティング条件」で設定した内容が有効となります。

■ ドメインルーティング条件

[ドメインルーティング機能] で「有効」を選択した場合に、「ドメインルーティング条件」の設定内容が有効となります。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※設定を反映するには再起動を行ってください。

[ドメインルーティングに戻る](#)

5 [ドメインルーティングに戻る] をクリックする。

[ドメインルーティング条件]

No.	ドメイン名	ルーティング先	編集	削除
1		PPP1	編集	削除
2		PPP1	編集	削除
3		PPP1	編集	削除
4		PPP1	編集	削除

6 「ドメインルーティング条件」の編集する項目の【編集】をクリックする。

OG800Xa
GW装置
バージョン
再起動

ルータ設定 > DNS設定 > ドメインルーティング
ドメインルーティング
[機能設定]
ドメインルーティング機能 ○有効 ○無効

トップページへ戻る

ドメインルーティングの設定を行います。

<注意事項>
・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

ドメインルーティング条件1

ドメイン設定	
ドメイン名	<input type="text"/> ・半角253文字以内で入力してください。
ルーティング先	PPP1

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。
[設定保存] [元に戻す]

基本設定
ルータ設定
リンク設定
LAN インタフェース設定
WAN インタフェース設定
ルーティング設定
DNS設定
DNS
ドメインルーティング
アドレス変換設定
トランスレータ設定
フィルタリング設定

7 次の各項目を設定する。

■ ドメイン設定

[ドメイン名]

ドメインルーティング条件を適用するドメイン名を入力します。半角英小文字、半角数字と記号（「-」「_」）253文字以内で入力します。

[ルーティング先] (初期値：PPP1)

ルーティング先を指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 [再起動] をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

- 「ドメインルーティング条件」を削除するには
 - ① 手順6の「ドメインルーティング条件」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。
削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。

NAT、静的IPマスカレード、静的NAT、DMZの設定ができます。

NAT

インタフェースごとに、NAT機能を有効にするかどうかを設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン 00000000

[再起動](#)

[トップページへ戻る](#)

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ②-1 リンク設定
 - ②-2 LANインタフェース設定
 - ②-3 WANインタフェース設定
 - ②-4 ルーティング設定
 - ②-5 DNS設定
 - ②-6 アドレス変換設定
 - ②-6-1 NAT
 - ②-6-2 静的IPマスカレード
 - ②-6-3 静的NAT
 - ②-6-4 DMZ
 - ②-6-5 トランスレータ設定

ルータ設定>アドレス変換設定>NAT

NAT

NATの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[NAT設定]		
インタフェース名		NAT機能
PPP1		<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP2		<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP3		<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP4		<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP5		<input checked="" type="checkbox"/> 有効
WAN		<input checked="" type="checkbox"/> 有効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [NAT] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ NAT設定 (初期値：すべて有効)

インタフェースのNAT機能を有効にする場合は、[有効]のチェックボックスをクリックしてチェックマークを付けます。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す]をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

静的IPマスカレード

静的IPマスカレードを設定します。

WAN側からの特定の宛先ポートの通信を、LAN側の特定のローカルIPアドレスの端末に送信できます。

静的IPマスカレードの設定を行います。

<注意事項>
 ・「編集」をクリックすると各テーブルの編集画面へと移動します。
 ・「削除」をクリックすると指定したテーブルのデータを削除します。
 ※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存

【静的IPマスカレードテーブル】 ■1-25 ■26-50

No.	変換対象		変換後宛先	編集	削除
	プロトコル	ポート番号	ローカルIPアドレス		
1	TCP/UDP			編集	削除
2	TCP/UDP			編集	削除
3	TCP/UDP			編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [静的IPマスカレード] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

【静的IPマスカレード機能】(初期値：有効)

静的IPマスカレード機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の【静的IPマスカレードテーブル】で設定した内容が有効となります。

■ 静的IPマスカレードテーブル

静的IPマスカレードテーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※ 設定を反映するには再起動を行ってください。

静的IPマスカレードに戻る

5 [静的IPマスカレードに戻る] をクリックする。

【静的IPマスカレードテーブル】 ■1-25 ■26-50

No.	変換対象		変換後宛先	編集	削除
	プロトコル	ポート番号	ローカルIPアドレス		
1	TCP/UDP			編集	削除
2	TCP/UDP			編集	削除
3	TCP/UDP			編集	削除

(次ページへ続きます)

- 6 [静的IPマスカレードテーブル] の編集する項目の [編集] をクリックする。
[No.26] 以降の項目を編集する場合は、「■26-50」をクリックしてページを切り換えます。

静的IPマスカレードの設定を行います。

<注意事項>

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- 「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

静的IPマスカレードテーブルNo.1

【静的IPマスカレード設定】

プロトコル	<input type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP <input type="radio"/> TCP/UDP
ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/> <small>・それぞれ1~65535の間で入力してください。</small>
ローカルIPアドレス	<input type="text"/> <small>・IPv4アドレスを入力してください。</small>

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

- 7 各項目を設定する。

■ 静的IPマスカレード設定

[プロトコル] (初期値：TCP/UDP)

WAN側に公開したいアプリケーションが使用するプロトコルを指定します。
「TCP」、「UDP」、「TCP/UDP」のいずれかをクリックして選択します。

[ポート番号] (開始 ~ 終了)

WAN側に公開したいアプリケーションが使用するTCP/UDPのポート番号を入力します。
設定範囲：1 ~ 65535

[ローカルIPアドレス]

LAN側端末のIPアドレスを指定します。

- 8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

- 9 [再起動] をクリックする。

- 10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

- 11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

- 「静的IPマスカレードテーブル」を削除するには
 - ① 手順6の「静的IPマスカレードテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。
 削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。



お知らせ

- 「静的IPマスカレード」の設定を行う場合は、「フィルタリング設定」(P3-33)の「条件設定」の「フィルタ種別」を「許可」に設定する必要があります。
- 静的IPマスカレードを利用している場合に攻撃検出機能により、外部からの通信を破棄する場合があります。その際はパスワード変更を実施した上で、攻撃検出機能を「無効」にする必要があります。

静的NAT

静的NATを設定します。

WAN側の特定のIPアドレスを宛先とした通信を、LAN側の特定のローカルIPアドレスの端末に送信できます。

ルータ設定 > アドレス変換設定 > 静的NAT

静的NAT

[機能設定]

静的NAT機能 有効 無効

静的NATの設定を行います。

<注意事項>
 ・「編集」をクリックすると各テーブルの編集画面へと移動します。
 ・「削除」をクリックすると指定したテーブルのデータを削除します。
 ※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存

[静的NATテーブル] ■1-25 ■26-50 ■51-64

No.	インタフェース	グローバルIPアドレス	ローカルIPアドレス	編集	削除
1	PPP1			編集	削除
2	PPP1			編集	削除
3	PPP1			編集	削除
4	PPP1			編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [静的NAT] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[静的NAT機能] (初期値：有効)

静的NAT機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「静的NATテーブル」で設定した内容が有効となります。

■ 静的NATテーブル

静的NATテーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※ 設定を反映するには再起動を行ってください。

[静的NATに戻る](#)

5 [静的NATに戻る] をクリックする。

[静的NATテーブル] ■1-25 ■26-50 ■51-64

No.	インタフェース	グローバルIPアドレス	ローカルIPアドレス	編集	削除
1	PPP1			編集	削除
2	PPP1			編集	削除
3	PPP1			編集	削除

6 [静的NATテーブル] の編集する項目の[編集]をクリックする。

[No.26] 以降の項目を編集する場合は、「■26-50」または「■51-64」をクリックしてページを切り換えます。

静的NATの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

静的NATテーブルNo.1

[静的NAT設定]

インタフェース	PPP1	
グローバルIPアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。
ローカルIPアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

7 各項目を設定する。

■ 静的NAT設定

[インタフェース] (初期値: PPP1)

適用するインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

[グローバルIPアドレス]

WAN側 (送信先) のグローバルIPアドレスを指定します。

[ローカルIPアドレス]

LAN側端末のIPアドレスを指定します。

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 [再起動] をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

● 「静的NATテーブル」を削除するには

- ① 手順6の「静的NATテーブル」で、削除する項目の[削除]をクリックする。
- ② 確認画面が表示されたら、[OK]をクリックする。
削除を中止するときは[キャンセル]をクリックします。



お知らせ

- 「静的NAT」の設定を行う場合は、「フィルタリング設定」(P3-33)の「条件設定」の「フィルタ種別」を「許可」に設定する必要があります。
- 静的NATを利用している場合に攻撃検出機能により、外部からの通信を破棄する場合があります。その際はパスワード変更を実施した上で、攻撃検出機能を「無効」にする必要があります

DMZ

DMZ (DeMilitarized Zone) を設定します。
LAN内にDMZホストを設置できます。

ルータ設定>アドレス変換設定>DMZ

DMZ

DMZ機能の設定を行います。

<注意事項>
・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

トップページへ戻る

- 基本設定
- ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WAN インタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - NAT
 - 静的IPマスカレード
 - 静的NAT
 - DMZ
 - トランスレータ設定

[DMZ設定]

DMZホスト機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
転送先IPアドレス	<input type="text"/> ・IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [DMZ] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ DMZ設定

[DMZホスト機能] (初期値：無効)

DMZ機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の【転送先IPアドレス】で設定した内容が有効となります。

[転送先IPアドレス]

DMZホストに指定するLAN側端末のIPアドレスを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。

トランスレータ機能を設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン (初期値)

再起動

ルータ設定>トランスレータ設定

トランスレータ設定

[機能設定]

トランスレータ機能 有効 無効

[トップページへ戻る](#)

トランスレータ機能を無効に設定します。よろしければ「設定保存」ボタンをクリックしてください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。
[設定保存](#)

- ◎ 基本設定
- ◎ ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - ◎ WAN インタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - ◎ トランスレータ設定
 - フィルタリング設定

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [トランスレータ設定] をクリックする。

3 項目を設定する。

■ 機能設定

[トランスレータ機能] (初期値：無効)

トランスレータ機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [基本設定]、[応答アドレスプール]、[ドメイン名変換エントリ] で設定した内容が有効となります。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※設定を反映するには再起動を行ってください。

[トランスレータ設定に戻る](#)

5 [トランスレータ設定に戻る] をクリックする。

トランスレータの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

[基本設定]

RTSPポート番号	554	・554、または1024～65535の間で入力してください。
HTTPポート番号	80	・80、または1024～65535の間で入力してください。
HTTPSポート番号	443	・443、または1024～65535の間で入力してください。

[応答アドレスプール]

IPアドレス	10.0.0.1	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	24	・8～24の間で入力してください。

[ドメイン名変換エントリ]

No.	ローカルドメイン	リモートドメイン
1	[]	[]

6 各項目を設定する。

■ 基本設定

[RTSPポート番号] (初期値：554)

RTSPのポート番号を指定します。
設定範囲：554 または 1024 ～ 65535

[HTTPポート番号] (初期値：80)

HTTPのポート番号を指定します。
設定範囲：80 または 1024 ～ 65535

[HTTPSポート番号] (初期値：443)

HTTPSのポート番号を指定します。
設定範囲：443 または 1024 ～ 65535

■ 応答アドレスプール

[IPアドレス] (初期値：10.0.0.1)

ドメイン名変換対象のIPv4アドレスを入力します。

[マスク長] (初期値：24)

マスクのビット数を表す数値を入力します。
設定範囲：8 ～ 24

■ ドメイン名変換エントリ

ドメイン名変換データを登録します。

[ローカルドメイン]

ドメイン変換のローカルドメインを入力します。半角英小文字、半角数字と記号（「-」「.」「_」）253文字以内で入力します。

[リモートドメイン]

ドメイン変換のリモートドメインを入力します。半角英小文字、半角数字と記号（「-」「.」「_」）253文字以内で入力します。

7 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

8 [再起動] をクリックする。

9 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

10 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

フィルタリング設定

パケットフィルタリング機能を設定します。
 インタフェース、IPアドレス、プロトコル、ポート番号などの条件を指定して中継するIPパケットを通過／破棄するように設定することで、本商品を通過するパケットを制限することができます。

OG800Xa
GW装置

バージョン 1.00.00

再起動

ルータ設定>フィルタリング設定

フィルタリング設定

【機能設定】

フィルタリング機能 有効 無効

再起動

トップページへ戻る

- ◎ 基本設定
- ◎ ルータ設定
 - リンク設定
 - LANインタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - トランスレータ設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPN / スムールー設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定

フィルタリングの設定を行います。

<注意事項>

- ・「編集」をクリックすると各テーブルの編集画面へと移動します。
- ・「削除」をクリックすると指定したテーブルのデータを削除します。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

設定保存

【フィルタリングテーブル】 ■1-25 ■26-50 ■51-75 ■76-100 ■101-128

No.	ルール プロトコル	受信		送信先IPアドレス		送信先ポート		TCPフラグ				編集	削除	
		送信	送信元IPアドレス	送信元ポート	SYN	ACK	FIN	RST	URG	PSH				
1													編集	削除
2													編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [フィルタリング設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[フィルタリング機能] (初期値：有効)

フィルタリング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [フィルタリングテーブル] で設定した内容が有効となります。

■ フィルタリングテーブル

フィルタリングテーブルにフィルタ条件を登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を反映しました。

フィルタリング設定に戻る

5 [フィルタリング設定に戻る] をクリックする。

【フィルタリングテーブル】 ■1-25 ■26-50 ■51-75 ■76-100 ■101-128

No.	ルール プロトコル	受信		送信先IPアドレス		送信先ポート		TCPフラグ				編集	削除	
		送信	送信元IPアドレス	送信元ポート	SYN	ACK	FIN	RST	URG	PSH				
1													編集	削除
2													編集	削除

6 [フィルタリングテーブル] の編集する項目の [編集] をクリックする。

「No. 26」以降の項目を編集する場合は、「■26-50」または「■51-75」、「■76-100」、「■101-128」をクリックしてページを切り換えます。

フィルタリングの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効となります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

フィルタ条件1

※IPアドレスは4またはIPv6どちらかに統一してください。

【条件設定】

フィルタ種別	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 拒否	
受信インタフェース	指定なし	
送信インタフェース	指定なし	
ネットワーク層プロトコル	指定なし	
トランスポート層プロトコル	指定なし	
【IPアドレス】		
送信先IPアドレス指定	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・送信先IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信先IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。
送信元IPアドレス指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・送信元IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信元IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。
【ポート】		
送信先ポート指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	・それぞれ1～65535の間で入力してください。
送信元ポート指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	・それぞれ1～65535の間で入力してください。
【TCPフラグ】		
TCPフラグ対象	<input type="checkbox"/> SYN <input type="checkbox"/> ACK <input type="checkbox"/> FIN <input type="checkbox"/> RST <input type="checkbox"/> URG <input type="checkbox"/> PSH	
TCPフラグ設定	<input type="checkbox"/> SYN <input type="checkbox"/> ACK <input type="checkbox"/> FIN <input type="checkbox"/> RST <input type="checkbox"/> URG <input type="checkbox"/> PSH	・TCPフラグ対象にチェックが入っているものだけ選択可能です。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効となります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

7 各項目を設定する。

■ 条件設定

【フィルタ種別】（初期値：拒否）

パケットの通過を許可するかどうかを指定します。

【受信インタフェース】（初期値：指定なし）

受信インタフェースを指定します。

- ・ 指定なし
- ・ LAN
- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

【送信インタフェース】（初期値：指定なし）

送信インタフェースを指定します。

- ・ 指定なし
- ・ LAN
- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

【ネットワーク層プロトコル】（初期値：指定なし）

ネットワーク層プロトコルを指定します。

「指定なし」、「IPv4」、「IPv6」のいずれかをクリックして選択します。

「IPv4」、「IPv6」を選択した場合には、次の「IPアドレス」で設定した内容が有効となります。

【トランスポート層プロトコル】（初期値：指定なし）

トランスポート層プロトコルを指定します。

「指定なし」、「TCP」、「UDP」、「ICMP」のいずれかをクリックして選択します。

「TCP」、「UDP」、「ICMP」を選択した場合には、次の「ポート」で設定した内容が有効となります。

(次ページへ続きます)

■ IPアドレス

[送信先IPアドレス指定] (初期値：なし)

送信先のIPアドレスを指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の[IPアドレス]、[マスク長]で設定した内容が有効となります。

[IPアドレス]

送信先のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲

IPアドレスがIPv4の場合：1～32 IPアドレスがIPv6の場合：1～128

[送信元IPアドレス指定] (初期値：なし)

送信元のIPアドレスを指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の[IPアドレス]、[マスク長]で設定した内容が有効となります。

[IPアドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信元IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲

IPアドレスがIPv4の場合：1～32 IPアドレスがIPv6の場合：1～128

■ ポート

[送信先ポート指定] (初期値：なし)

送信先のポート番号を指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の [ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[ポート番号] (開始～終了)

送信先ポートの開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。

設定範囲：1～65535

[送信元ポート指定] (初期値：なし)

送信元のポート番号を指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の [ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[ポート番号] (開始～終了)

送信元ポートの開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。

設定範囲：1～65535

■ TCPフラグ

[トランスポート層プロトコル] で「TCP」を選択した場合に設定できます。

[TCPフラグ対象] (初期値：選択なし)

フィルタリング対象のTCPコネクションフラグを指定します。

「SYN」、「ACK」、「FIN」、「RST」、「URG」、「PSH」をクリックして選択します。

複数のフラグを選択することができます。

[TCPフラグ設定] (初期値：選択なし)

設定するTCPコネクションフラグを指定します。

「SYN」、「ACK」、「FIN」、「RST」、「URG」、「PSH」をクリックして選択します。

[TCPフラグ対象] で選択していないフラグは、選択できません。

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

- 「フィルタリングテーブル」を削除するには
 - ① 手順6の「フィルタリングテーブル」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。
削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。



お知らせ

- 送信先のIPアドレスと送信元のIPアドレスは、IPv4またはIPv6で統一してください。

VPN (Virtual Private Network) 機能を設定します。IPsec VPN、L2TP VPN、PPTP VPNが利用できます。

IPsec VPN

IPsec VPNを設定します。



[トップページへ戻る](#)

IPsec VPN機能を無効に設定します。
よろしければ「設定保存」ボタンをクリックしてください。

① **基本設定**

② **ルータ設定**

- リンク設定
- LAN インタフェース設定
- ② WAN インタフェース設定
- ルーティング設定
- DNS設定
- アドレス変換設定
- トランスレータ設定
- フィルタリング設定
- ③ **VPN設定**
 - IPsec VPN
 - L2TP VPN
 - PPTP VPN

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。
[設定保存](#)

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(➡P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPN設定] → [IPsec VPN] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[IPsec VPN機能] (初期値：無効)

IPsec VPN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [IPsec VPNテーブル] で設定した内容が有効となります。

■ IPsec VPNテーブル

IPsec VPNテーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※ 設定を反映するには再起動を行ってください。

[IPsec VPNに戻る](#)

5 [IPsec VPNに戻る] をクリックする。

[IPsec VPNテーブル]

No.	接続先IPアドレス	ルーティング先	編集	削除
	接続元IPアドレス			
1			編集	削除
2			編集	削除
3			編集	削除

6 [IPsec VPNテーブル] の編集する項目の [編集] をクリックする。

IPsec VPNの設定を行います。

< 注意事項 >

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された個になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

IPsec VPNテーブル1

※IPアドレスはv4またはv6どちらかに統一してください。

【基本設定】

接続先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
接続元インタフェース	WAN	
接続元IPアドレス	<input type="text"/>	・接続元インタフェースで「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPアドレスを入力してください。
事前共有鍵	<input type="text"/>	・半角256文字以内で入力してください。

【Phase1設定】

暗号化アルゴリズム	3DES-CBC	
ハッシュアルゴリズム	MD5	
DHグループ	2	
生存時間	28800 秒	・300～86400秒の間で入力してください。

【Phase2設定】

暗号化アルゴリズム	3DES-CBC	
ハッシュアルゴリズム	MD5	
PFS	なし	
生存時間	28800 秒	・300～86400秒の間で入力してください。

【ルーティング設定】

送信先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
送信先マスク長	<input type="text"/>	・送信先IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信先IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

7 各項目を設定する。

■ 基本設定

【接続先IPアドレス】

接続先のIPアドレスを入力します。

【接続元インタフェース】 (初期値：WAN)

接続元のインタフェースを指定します。

- ・PPP1～PPP5
- ・WAN
- ・IPアドレス指定

【接続元IPアドレス】

【接続元インタフェース】で「IPアドレス指定」を選択した場合に、接続元のIPアドレスを入力します。

【事前共有鍵】

事前共有鍵を設定する場合は、半角英数字と記号（「:」「!」「|」「¥」「スペース」を除く）256文字以内で入力します。

■ Phase1設定

【暗号化アルゴリズム】 (初期値：3DES-CBC)

Phase1の暗号化アルゴリズムを指定します。

「3DES-CBC」、「AES-CBC」のいずれかをクリックして選択します。

【ハッシュアルゴリズム】 (初期値：MD5)

Phase1のハッシュアルゴリズムを指定します。

「MD5」、「SHA-1」のいずれかをクリックして選択します。

(次ページへ続きます)

[DHグループ] (初期値: 2)

Phase1のDHグループを指定します。
「1」、「2」、「5」のいずれかをクリックして選択します。

[生存時間] (初期値: 28800秒)

Phase1の生存時間を入力します。
設定範囲: 300 ~ 86400 (秒)

■ Phase2設定

[暗号化アルゴリズム] (初期値: 3DES-CBC)

Phase2の暗号化アルゴリズムを指定します。
「3DES-CBC」、「AES-CBC」のいずれかをクリックして選択します。

[ハッシュアルゴリズム] (初期値: MD5)

Phase2のハッシュアルゴリズムを指定します。
「MD5」、「SHA-1」のいずれかをクリックして選択します。

[PFS] (初期値: なし)

Phase2のPFSを指定します。
「なし」、「1」、「2」、「5」のいずれかをクリックして選択します。

[生存時間] (初期値: 28800秒)

Phase2の生存時間を入力します。
設定範囲: 300 ~ 86400 (秒)

■ ルーティング設定

[送信先IPアドレス]

送信先のネットワークアドレスを入力します。

[送信先マスク長]

送信先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。
設定範囲
IPアドレスがIPv4の場合: 1 ~ 32 IPアドレスがIPv6の場合: 1 ~ 128

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 [再起動] をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

- 「IPsec VPNテーブル」を削除するには
 - ① 手順6の「IPsec VPNテーブル」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。
削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。



お知らせ

- 接続先IPアドレスと接続元IPアドレスと送信先IPアドレスは、IPv4またはIPv6で統一してください。

L2TP VPN

L2TP VPNを設定します。

OG800Xa GW装置 バージョン <input type="button" value="再起動"/>	ルータ設定 > VPN設定 > L2TP VPN L2TP VPN [機能設定] L2TP VPN機能 <input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
---	--

[トップページへ戻る](#)

L2TP VPN機能を無効に設定します。
よろしければ「設定保存」ボタンをクリックしてください。

① 基本設定

② ルータ設定

- リンク設定
- LAN インタフェース設定
- ② WAN インタフェース設定
- ルーティング設定
- DNS設定
- アドレス変換設定
- トランスレータ設定
- フィルタリング設定

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPN設定] → [L2TP VPN] をクリックする。

3 項目を設定する。

■ 機能設定

[L2TP VPN機能] (初期値：無効)

L2TP VPN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [基本設定]、[ユーザ登録] で設定した内容が有効となります。

4 各項目を設定する。

L2TP VPNの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[基本設定]

インタフェース	WAN	
ローカルIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
リモートIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
MTU値	1408	・576～1500の間で入力してください。
事前共有鍵	<input type="text"/>	・半角256文字以内で入力してください。

ユーザ登録

[登録テーブル]

No	ユーザ名	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>

(次ページへ続きます)

1 設定する

2 基本設定

3 ルータ設定

4 電話設定

5 保守

6 レポート表示

7 付録

■ 基本設定

[インタフェース] (初期値：WAN)

WANインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

[ローカルIPアドレス]

ローカル端末のIPアドレスを入力します。

[リモートIPアドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[プライマリDNSサーバ]

プライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバ]

セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[プライマリWINSサーバ]

プライマリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリWINSサーバ]

セカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[MTU値] (初期値：1408)

MTU値を入力します。

設定範囲：576 ~ 1500

[事前共有鍵]

事前共有鍵を設定する場合は、半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「スペース」を除く）256文字以内で入力します。

■ ユーザ登録

「登録テーブル」にユーザアカウントを登録します。

[ユーザ名]

ユーザアカウントのIDを入力します。半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

[パスワード]

ユーザアカウントのパスワードを入力します。半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

PPTP VPN

PPTP VPNを設定します。

OG800Xa GW装置	ルータ設定 > VPN設定 > PPTP VPN
バージョン	PPTP VPN
<input type="button" value="再起動"/>	[機能設定] PPTP VPN機能 <input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

[トップページへ戻る](#)

PPTP VPN機能を無効に設定します。
よろしければ「設定保存」ボタンをクリックしてください。

基本設定

- ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WAN インタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - トランスレータ設定
 - フィルタリング設定

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1 ~ 3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPN設定] → [PPTP VPN] をクリックする。

3 項目を設定する。

■ 機能設定

[PPTP VPN機能] (初期値：無効)

PPTP VPN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [基本設定]、[ユーザ登録] で設定した内容が有効となります。

4 各項目を設定する。

PPTP VPNの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[基本設定]

インタフェース	WAN	
ローカルIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
リモートIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。

ユーザ登録

[登録テーブル]

No.	ユーザ名	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>

(次ページへ続きます)

■ 基本設定

[インタフェース] (初期値: WAN)

インタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

[ローカルIPアドレス]

ローカル端末のIPアドレスを入力します。

[リモートIPアドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[プライマリDNSサーバ]

プライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバ]

セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[プライマリWINSサーバ]

プライマリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリWINSサーバ]

セカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

■ ユーザ登録

「登録テーブル」にユーザアカウントを登録します。

[ユーザ名]

ユーザアカウントのIDを入力します。半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

[パスワード]

ユーザアカウントのパスワードを入力します。半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

VPNパススルー機能を設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン

再起動

トップページへ戻る

- 基本設定
- ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WAN インタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - トランスレータ設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPNパススルー設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定
 - マルチキャスト 配信設定

ルータ設定 > VPNパススルー設定

VPNパススルー設定

VPNパススルーの設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[IPsecパススルー設定]

パススルー機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
端末IPアドレス	<input type="text"/> ・IPv4アドレスを入力してください。

[L2TPパススルー設定]

パススルー機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
端末IPアドレス	<input type="text"/> ・IPv4アドレスを入力してください。

[PPTPパススルー設定]

パススルー機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
端末IPアドレス	<input type="text"/> ・IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPNパススルー設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ IPsecパススルー設定

[パススルー機能] (初期値：無効)

IPsec VPNのパススルー機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [端末IPアドレス] で設定した内容が有効となります。

[端末IPアドレス]

IPsecサーバのIPアドレスを入力します。

■ L2TPパススルー設定

[パススルー機能] (初期値：無効)

L2TP VPNのパススルー機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [端末IPアドレス] で設定した内容が有効となります。

[端末IPアドレス]

L2TPサーバのIPアドレスを入力します。

■ PPTPパススルー設定

[パススルー機能] (初期値：無効)

PPTP VPNのパススルー機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [端末IPアドレス] で設定した内容が有効となります。

[端末IPアドレス]

PPTPサーバのIPアドレスを入力します。

(次ページへ続きます)

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

UPnP機能を設定します。

ルータ設定 > UPnP設定

UPnP設定

UPnPを利用する接続先を設定します。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[UPnP設定]
 UPnP機能 無効 CP IGD
 [UPnP IGD設定]
 UPnP機能(IGD) 利用接続先 PPP1

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
 「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [UPnP設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ UPnP設定

[UPnP機能] (初期値：無効)

UPnP機能を使用するかどうかを指定します。

「無効」、「CP」、「IGD」のいずれかをクリックして選択します。

「CP」はOCN. Phone OfficeまたはXePhionコールPro+ (プラス) のIP電話サービスをご利用の場合に設定できます。

「IGD」を選択した場合には、次の [UPnP IGD設定] で設定した内容が有効となります。

■ UPnP IGD設定

[UPnP機能 (IGD) 利用接続先] (初期値：PPP1)

[UPnP機能] で「IGD」を選択したときの、接続先インタフェースを指定します。

・ PPP1 ～ PPP5

・ WAN

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
 本商品が再起動され、設定が有効になります。

ブリッジ機能を設定します。PPPoEブリッジ機能、IPv6ブリッジ機能が利用できます。

OG800Xa
GW装置

バージョン

再起動

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - ③ WAN インタフェース設定
 - ④ ルーティング設定
 - ⑤ DNS設定
 - ⑥ アドレス変換設定

ルータ設定 > ブリッジ設定

ブリッジ設定

ブリッジの設定を行います。

< 注意事項 >

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- ・IPv6ブリッジを「有効」に設定した場合、IPv6ルーティングは無効となります。

[ブリッジ設定]

PPPoEブリッジ	○ 有効 ○ 無効
IPv6ブリッジ	○ 有効 ○ 無効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存
元に戻す

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
「設定画面にログインする」(➡P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [ブリッジ設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ **ブリッジ設定**

[PPPoEブリッジ] (初期値：有効)

PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを指定します。

[IPv6ブリッジ] (初期値：無効)

IPv6ブリッジ機能を使用するかどうかを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。
取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

マルチキャスト配信機能を設定します。

OG800Xa
GW装置
バージョン
再起動

ルータ設定 > マルチキャスト配信設定

マルチキャスト配信設定

マルチキャスト配信機能に関する設定を行います。

< 注意事項 >
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[マルチキャスト配信設定]
 マルチキャスト配信機能 有効 無効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。
 [設定保存] [元に戻す]

トップページへ戻る

- 基本設定
- ルータ設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WLAN インタフェース設定
 - ルーティング設定

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [マルチキャスト配信設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ マルチキャスト配信設定

[マルチキャスト配信機能] (初期値：有効)

マルチキャスト配信機能を使用するかどうかを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

優先制御と帯域制御を設定します。

優先制御

QoSの優先制御機能を設定します。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1 ~ 3を行います。

2 [ルータ設定] → [QoS設定] → [優先制御] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[優先制御機能] (初期値：無効)

QoSの優先制御機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「優先制御テーブル」で設定した内容が有効となります。

■ 優先制御テーブル

優先制御テーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※ 設定を反映するには再起動を行ってください。

[優先制御に戻る](#)

5 [優先制御に戻る] をクリックする。

[優先制御テーブル]

No.	条件	優先度	出力 インタフェース	ネットワーク層 プロトコル	IPアドレス/マスク長	プロトコル	ポート	編集	削除
1	送信元: 送信先:	ベストエフォート	WAN	指定なし		指定なし		編集	削除
2	送信元: 送信先:	ベストエフォート	WAN	指定なし		指定なし		編集	削除
3	送信元: 送信先:	ベストエフォート	WAN	指定なし		指定なし		編集	削除

6 [優先制御テーブル] の編集する項目の [編集] をクリックする。

優先制御の設定を行います。

<注意事項>

各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値となります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効となります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

優先制御テーブル1

[条件設定]

優先度	ベストエフォート	※各レベルで使用可能な帯域幅を編集する場合は「帯域制御」ページで設定を行ってください。
ネットワーク層プロトコル	指定なし	
トランスポート層プロトコル	指定なし	
出カインタフェース	WAN	
Tos/TC	0	・0～63の間で入力してください。
[IPアドレス設定]		
送信元IPアドレス指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・送信元IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信元IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。
送信先IPアドレス指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・送信先IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信先IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。
[ポート設定]		
送信元ポート指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
ポート番号	<input type="text"/> ～ <input type="text"/>	・それぞれ1～65535の間で入力してください。
送信先ポート指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
ポート番号	<input type="text"/> ～ <input type="text"/>	・それぞれ1～65535の間で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効となります。

[設定保存](#) [元に戻す](#)

7 各項目を設定する。

■ 条件設定

[優先度] (初期値：ベストエフォート)

優先度を指定します。

- ・優先度4 (高) ～ 優先度1 (低)
- ・ベストエフォート

[ネットワーク層プロトコル] (初期値：指定なし)

ネットワーク層プロトコルを指定します。

「指定なし」、「IPv4」、「IPv6」のいずれかをクリックして選択します。

[トランスポート層プロトコル] (初期値：指定なし)

トランスポート層プロトコルを指定します。

「指定なし」、「TCP」、「UDP」のいずれかをクリックして選択します。

[出カインタフェース] (初期値：WAN)

出力するインタフェースを指定します。

- ・PPP1 ～ PPP5
- ・WAN

[Tos/TC] (初期値：0)

Tos/TC値を入力します。

設定範囲：0 ～ 63

■ IPアドレス設定

[ネットワーク層プロトコル] で「IPv4」または「IPv6」を選択した場合に設定できます。

[送信元IPアドレス指定] (初期値：なし)

送信元のIPアドレスを指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の[IPアドレス]、[マスク長]で設定した内容が有効となります。

[IPアドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

(次ページへ続きます)

[マスク長]

送信元IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲

IPアドレスがIPv4の場合：1～32 IPアドレスがIPv6の場合：1～128

[送信先IPアドレス指定] (初期値：なし)

送信先のIPアドレスを指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の[IPアドレス]、[マスク長]で設定した内容が有効となります。

[IPアドレス]

送信先のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲

IPアドレスがIPv4の場合：1～32 IPアドレスがIPv6の場合：1～128

■ ポート設定

[トランスポート層プロトコル] で「TCP」または「UDP」を選択した場合に設定できます。

[送信元ポート指定] (初期値：なし)

送信元のポート番号を指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の[ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[ポート番号] (開始～終了)

送信元ポートの開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。

設定範囲：1～65535

[送信先ポート指定] (初期値：なし)

送信先のポート番号を指定するかどうかを指定します。

「あり」を選択した場合には、次の[ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[ポート番号] (開始～終了)

送信先ポートの開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。

設定範囲：1～65535

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 [再起動] をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

- 「優先制御テーブル」を削除するには
 - ① 手順6の「優先制御テーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。
削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。



お知らせ

- 送信元のIPアドレスと送信先のIPアドレスは、IPv4またはIPv6で統一してください。

帯域制御

QoSの帯域制御機能を設定します。

OG800Xa
GW装置

バージョン 再起動

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ②-1 リンク設定
 - ②-2 LAN インタフェース設定
 - ②-3 WAN インタフェース設定
 - ②-4 ルーティング設定
 - ②-5 DNS設定
 - ②-6 アドレス変換設定
 - ②-7 トランスレータ設定
 - ②-8 フィルタリング設定
 - ②-9 VPN設定
 - ②-9-1 VPNバスマスル設定
 - ②-9-2 UPnP設定
 - ②-9-3 プリッジ設定
 - ②-9-4 マルチキャスト配信設定
 - ②-9-5 QoS設定

ルータ設定 > QoS設定 > 帯域制御

帯域制御

帯域制御の設定を行います。

< 注意事項 >

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[機能設定]

帯域制御機能	<input type="text" value="無効"/>	
優先度4	<input type="text" value="1000"/> Mbps	・1~1000の間で入力してください。 ・値はあくまでも目安であり、実測値とは異なる場合があります。
優先度3	<input type="text" value="1000"/> Mbps	・1~1000の間で入力してください。 ・値はあくまでも目安であり、実測値とは異なる場合があります。
優先度2	<input type="text" value="1000"/> Mbps	・1~1000の間で入力してください。 ・値はあくまでも目安であり、実測値とは異なる場合があります。
優先度1	<input type="text" value="1000"/> Mbps	・1~1000の間で入力してください。 ・値はあくまでも目安であり、実測値とは異なる場合があります。
ベストエフォート	<input type="text" value="1000"/> Mbps	・1~1000の間で入力してください。 ・値はあくまでも目安であり、実測値とは異なる場合があります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 元に戻す

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(☛P1-2)の手順1~3を行います。

2 [ルータ設定] → [QoS設定] → [帯域制御] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[帯域制御機能] (初期値：無効)

帯域制御機能の動作を指定します。

- ・無効
- ・手動
- ・自動 (5Mbps)
- ・自動 (25Mbps)

「手動」を選択した場合には、次の [優先度4]、[優先度3]、[優先度2]、[優先度1]、[ベストエフォート] で設定した内容が有効となります。

■ 優先度

[優先度4] (初期値：1000)

優先度4の帯域制御の値を入力します。

設定範囲：1 ~ 1000 (Mbps)

[優先度3] (初期値：1000)

優先度3の帯域制御の値を入力します。

設定範囲：1 ~ 1000 (Mbps)

[優先度2] (初期値：1000)

優先度2の帯域制御の値を入力します。

設定範囲：1 ~ 1000 (Mbps)

(次ページへ続きます)

[優先度1] (初期値：1000)

優先度1の帯域制御の値を入力します。

設定範囲：1～1000 (Mbps)

[ベストエフォート] (初期値：1000)

ベストエフォートの帯域制御の値を入力します。

設定範囲：1～1000 (Mbps)

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

Wake on LAN設定

Wake on LAN機能を設定します。

ルータ設定 > Wake on LAN設定

Wake on LAN設定

Wake on LAN機能に関する設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[Wake on LAN設定]

Wake on LAN	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
受信インタフェース	WAN
受信ポート番号	7779

・1024～65535の間で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。
 [設定保存] [元に戻す]

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [Wake on LAN設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ Wake on LAN設定

[Wake on LAN] (初期値：有効)

Wake on LAN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[受信インタフェース]、[受信ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[受信インタフェース] (初期値：WAN)

Magic Packetを受信するインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ～ PPP5
- ・ WAN

[受信ポート番号] (初期値：7779)

Magic Packetを受信するポートのポート番号を入力します。

設定範囲：1024 ～ 65535

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

「電話設定」について

電話設定では、メディア変更設定を行うことができます。
メディア変更設定以外の電話設定は、工事担当者が設定します。

メディア変更設定を行う

フレッツ光ネクストのひかり電話どうして、本商品に接続された端末を用いて通話している場合には、通話しながら画像ファイルなどの様々な形式のデータを送受信できるようになっています。(端末側でデータの送受信機能に対応している必要があります。) この、お客様がひかり電話どうして通話中に各種データの送受信を開始する処理のことを「メディア変更」と呼びます。

通話相手からのメディア変更の要求を受けた時にそれを許容するか・許容しないかを、「メディア変更設定」で設定することができます。

The screenshot shows the settings interface for the OG800Xa gateway device. The main heading is 'メディア変更設定' (Media Change Settings). Below the heading, there are instructions and a dropdown menu for 'メディア変更動作' (Media Change Action) set to '常に許容する' (Always Allow). There are also buttons for '設定保存' (Save Settings) and '元に戻す' (Reset). A sidebar on the left contains navigation options: '基本設定' (Basic Settings), 'ルータ設定' (Router Settings), '電話設定' (Phone Settings), 'メディア変更設定' (Media Change Settings - selected), and '保守' (Maintenance).

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 「電話設定」 → 「メディア変更設定」 をクリックする。

3 項目を設定する。

■ メディア変更設定

【メディア変更動作】(初期値：常に許容する)

- ・常に許容する
自分が発信者／着信者のいずれでも、通話中の相手からのメディア変更を受け付けます。
- ・発信時のみ許容しない
自分が発信者の場合、通話中の相手からのメディア変更を拒否します。
- ・常に許容しない
自分が発信者／着信者のいずれでも、通話中の相手からのメディア変更を拒否します。

4 「設定保存」 をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

お知らせ

- 通話中の相手からのメディア変更を許容する場合、別途通話料がかかることがあります。
- メディア変更設定は、ひかり電話使用時のみ設定が有効になります。
- メディア変更設定を変更した場合、新しい通話から設定が有効になります。

「保守」について

バージョンアップなどの保守機能を実行します。

- ファームウェアをバージョンアップする (☛P5-2)
- リモートマネジメント (☛P5-10)
- 再起動する (☛P5-12)
- 省エネモードを解除する (☛P5-13)

1
設定する

2
基本設定

3
ルータ設定

4
電話設定

5
保守

6
レポート表示

7
付録

ファームウェアをバージョンアップする

本商品は、定期的にサーバにアクセスして自動的に最新のファームウェアに更新します。また、手動でファームウェアの更新を行うこともできます。

自動ファームウェア更新の設定をする

自動でファームウェア更新を行うかどうかを設定します。自動ファームウェア更新を無効にした場合は、更新チェックは自動で行われますが、ファームウェアのダウンロードや更新は行われません。

OG800Xa
GW装置
バージョン

再起動

トップページへ戻る

- ルータ機能設定
- DNS設定
- アドレス変換設定
 - NAT
 - 静的IPマスカレード
 - 静的NAT
 - DMZ
- トランスレータ設定
- フィルタリング設定
- VPN設定
 - IPsec VPN
 - L2TP VPN
 - PPTP VPN
- VPN (スプルー設定)
- UPnP設定
- ブリッジ設定
- マルチキャスト配信設定
- QoS設定
- Wake on LAN設定
- 電話設定
- 保守
 - ファームウェア更新
 - ローカルバージョンアップ
 - リモートマネジメント
- レポート表示

保守>ファームウェア更新

ファームウェア更新

ファームウェア更新に関する設定を行います。

<注意事項>

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- 「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 特に重要なファームウェアについては、お客様の設定に関わらず、「自動更新時刻」に設定された時刻にファームウェア更新が行われます。

[手動ファームウェア更新]

手動ファームウェア更新 「手動更新」をクリックすると、ファームウェアの更新チェックを行い、最新のファームウェアがある場合はダウンロードを開始します。

[自動ファームウェア更新詳細設定]

自動ファームウェア更新	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	自動ファームウェア更新が「有効」の場合は、0～23の間で入力してください。 最新のファームウェアがある場合、設定時刻から1時間以内に更新されます。
自動更新時刻	3 時	配下にGW装置を収容している場合は、設定時刻+1時間後から1時間以内に更新されます。
バージョンアップお知らせ用URL	<input type="text" value="http://www.cpeinfo.jp/"/>	ひかり電話オフィスA(オフィスタイプ/プレッツ 光ネクスト)以外の場合、有効になります。 *半角128文字以内で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1～3を行います。

2 [保守] → [ファームウェア更新] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 自動ファームウェア更新詳細設定

[自動ファームウェア更新] (初期値：有効)

自動ファームウェア更新を行うかどうかを指定します。

[自動更新時刻] (初期値：3時)

ファームウェアの更新チェックを行う時刻を設定します。新しいファームウェアがある場合には、設定した時刻から1時間以内（配下にゲートウェイ装置を収容している場合は設定時刻+1時間後から1時間以内）に新しいファームウェアをダウンロードして更新し、自動的に再起動します。

設定範囲：0～23

[バージョンアップお知らせ用URL] (<http://www.cpeinfo.jp/>)

ファームウェアの更新チェック用に指定されたURLです。変更する場合は、工事担当者が行います。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

STOP お願い

- ファームウェア更新中および再起動が完了するまでの間は、本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。

お知らせ

- 「自動ファームウェア更新」を「有効」に設定した場合は、最新のファームウェアを自動的にダウンロードして更新を行い、再起動します。
ただし、重要なファームウェアについては、「自動ファームウェア更新」の設定に関わらず、「自動更新時刻」に設定した時刻から1時間以内（配下にゲートウェイ装置を収容している場合は設定時刻+1時間後から1時間以内）にファームウェアの更新が行われます。更新完了時に通話中の場合は、通話が終わったあと1～6分後に再起動します。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。また、本商品のLANポート下部でIP端末をご利用の場合は、本商品の再起動完了後に、IP端末を登録し直す必要があります。IP端末の操作方法は、各機器の取扱説明書などを参照してください。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。
- 自動更新時刻の設定時刻に本商品の電源が入っていない場合は、自動ファームウェア更新は行われません。

Webブラウザから手動で更新する

Webブラウザから手動でファームウェアを更新することができます。

OG800Xa
GW装置
バージョン

再起動

トップページへ戻る

- ルータ設定
- DNS設定
- アドレス変換設定
 - NAT
 - 静的IPマスカレード
 - 静的NAT
 - DMZ
 - トランスレータ設定
 - フィルタリング設定
- VPN設定
 - IPsec VPN
 - L2TP VPN
 - PPTP VPN
 - VPNパススルー設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定
 - マルチキャスト配信設定
 - QoS設定
 - Wake on LAN設定
- 電話設定
- 保守
 - ファームウェア更新
 - ローカルバージョンアップ
 - リモートメンテナンス
- レポート表示

保守>ファームウェア更新

ファームウェア更新

ファームウェア更新に関する設定を行います。

<注意事項>

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- 「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 特に重要なファームウェアについては、お客様の設定に関わらず、「自動更新時刻」に設定された時刻にファームウェア更新が行われます。

[手動ファームウェア更新]

手動ファームウェア更新 「手動更新」をクリックすると、ファームウェアの更新チェックを行い、最新のファームウェアがある場合はダウンロードを開始します。

[自動ファームウェア更新詳細設定]

自動ファームウェア更新	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	自動ファームウェア更新が「有効」の場合は、0~23の間で入力してください。 最新のファームウェアがある場合、設定時刻から1時間以内に更新されます。 配下にGW装置を収容している場合は、設定時刻+1時間後から1時間以内に更新されます。
自動更新時刻	0 時	ひかり電話オフィスAオファイスタイプ(フレッツ 光ネクスト)以外の場合、有効になります。 半角128文字以内で入力してください。
バージョンアップお知らせURL	http://www.cpeinfo.jp/	

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1~3を行います。

2 [保守] → [ファームウェア更新] をクリックする。

3 [手動ファームウェア更新] の [手動更新] をクリックする。

4 「ファームウェアの更新チェックを行いますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

5 「ファームウェアの更新が完了しました。※更新を有効にするには再起動を行ってください。」と表示されたら [再起動] をクリックする。

最新のファームウェアがない場合は「確認が終了しました。新しい更新はありません。」と表示されます。再起動の必要はありません。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動します。



ワンポイント

- ファームウェアの更新チェックを中止するには手順4で [キャンセル] をクリックします。



お願い

- 再起動が完了するまでの間は、本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。



お知らせ

- 通話中に再起動を行うと、通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。また、本商品のLANポート下部でIP端末をご利用の場合は、本商品の再起動完了後に、IP端末を登録し直す必要があります。IP端末の操作方法は、各機器の取扱説明書などを参照してください。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

ローカルでファームウェアを更新する

パソコン上にダウンロードしたファームウェアファイルを使用して、Webブラウザからファームウェアを更新することができます。

OG800Xa
GW装置
バージョン 最新バージョン

保守>ローカルバージョンアップ
ローカルバージョンアップ

ファームウェアの更新を行います。

トップページへ戻る

① 基本設定

② ルータ設定

③ 電話設定

④ 保守
 ファームウェア更新
 ローカルバージョンアップ
 リモートマネジメント

ファイルを指定し「送信」ボタンをクリックしてください。
「送信」ボタンをクリックすると指定されたファームウェアに更新します。

ファームウェアの更新が正常終了した場合は再起動してください。

注意: 送信可能なファームウェアは、コード番号が同じファームウェアのみです。

<コード番号> 423

[コード番号]-OG400800X-[バージョン]*

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [保守] → [ローカルバージョンアップ] をクリックする。

3 [参照] をクリックし、パソコン上のファームウェアファイルを指定する。

- ・ ローカルバージョンアップ画面に「<コード番号>422」と表示されている場合は、ファイル名「422-OG400800X-XXXX」を指定してください。XXXXはファームウェアのバージョンです。
 - ・ ローカルバージョンアップ画面に「<コード番号>423」と表示されている場合は、ファイル名「423-OG400800X-XXXX」を指定してください。XXXXはファームウェアのバージョンです。
- ローカルバージョンアップ画面の<コード番号>表示と異なるファイル名を指定した場合は、ファームウェアの更新を行うことができません。

4 [送信] をクリックする。

5 「ファームウェアの更新を行いますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

6 「ファームウェアの更新が完了しました。※更新を有効にするには、再起動を行ってください。」と表示されたら [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動します。



ワンポイント

- ファームウェアの更新チェックを中止するには手順5で [キャンセル] をクリックします。



お願い

- ファームウェア更新中および再起動が完了するまでの間は、本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。



お知らせ

- 通話中に再起動を行うと、通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。また、本商品のLANポート下部でIP端末をご利用の場合は、本商品の再起動完了後に、IP端末を登録し直す必要があります。IP端末の操作方法は、各機器の取扱説明書などを参照してください。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

電話機から手動で確認／更新（再起動）する

ビジネスホンからの操作により、手動で最新ファームウェアの有無の確認や更新（再起動）をすることができます。ビジネスホンなどの詳しい操作方法は、接続したビジネスホンの取扱説明書などを参照してください。

■ 最新ファームウェアの確認

1 ビジネスホンの外線ランプが消えていることを確認し、外線ボタンを押す。
「ツー」という発信音を確認してください。

2 ハンドセット（受話器）を取りあげる。

3 ダイヤルボタンで00010と押す。

最新のファームウェアがある場合は、「新しいファームウェアへのバージョンアップが可能です。0を3回、1を2回、ダイヤルしてください。」という音声ガイダンスがハンドセットから聞こえます。

最新のファームウェアがない場合は、「新しいファームウェアへのバージョンアップ情報はありません。」という音声ガイダンスがハンドセットから聞こえます。

4 ハンドセット（受話器）を置く。

新しいファームウェアがある場合は、続けて以下の「最新ファームウェアの更新（再起動）」の操作を行ってください。

■ 最新ファームウェアの更新（再起動）

1 ビジネスホンの外線ランプが消えていることを確認し、外線ボタンを押す。
「ツー」という発信音を確認してください。

2 ハンドセット（受話器）を取りあげる。

3 ダイヤルボタンで00011と押す。

最新のファームウェアがある場合は「ピピッ・ピピッ」という確認音がハンドセットから聞こえ、ファームウェアの更新を行います。

最新のファームウェアがない場合は「ピッピッピッピッ」という確認音がハンドセットから聞こえます。

4 ハンドセット（受話器）を置く。

ファームウェアの更新が完了してから約1～6分後に再起動します。

ハンドセット（受話器）を置いたときに、ほかの電話機が通話中の場合は、通話が終わったあと1～6分後に再起動します。

 **お願い**

- 再起動が完了するまで本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。

 **お知らせ**

- 最新ファームウェアの確認／更新（再起動）は、ビジネスホンの外線捕捉の状態（「ツー」という発信音が聞こえる）で行ってください。
- ファームウェアの更新中はINITランプが点滅し、ファームウェアの更新が完了するとINITランプが消灯します。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。
本商品のLANポート下部でIP端末をご利用の場合は、本商品の再起動完了後、IP端末を登録し直す必要があります。IP端末の操作方法は、各機器の取扱説明書などを参照してください。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

リモートマネジメント

リモートマネジメントを行う際、サービスを開始/停止します。
リモートマネジメントを契約している場合、センターから遠隔で本商品の設定などを行うことができます。



お知らせ

- リモートマネジメントを利用するためには、本商品に設定を行う必要があります。設定は工事担当者が行いますので、当社のサービス取扱所までご連絡ください。
- リモートマネジメントを利用するためには、PPPoEの空きセッションが必要になります。
- リモートマネジメントサービスは、2011年5月現在、NTT西日本において未提供です。
- リモートマネジメントサービスのご利用時は、工事担当者の指示に従ってください。

OG800Xa
GW装置

バージョン [不明]

再起動

保守 > リモートマネジメント

リモートマネジメント

リモート 保守モードの開始/停止を行います。

[リモート 設定]		
PPPoE状態	空き	
リモート 設定	<input type="button" value="開始"/> <input type="button" value="停止"/>	リモート 保守モードを開始するときは「開始」ボタンを、停止するときは「停止」ボタンをクリックして下さい。

トップページへ戻る

- ◎ 基本設定
- ◎ ルータ設定

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [保守] → [リモートマネジメント] をクリックする。

3 サービスを開始する場合は、「リモート設定」の [開始] をクリックする。

「リモート保守モードを開始します。よろしいですか?」と表示されます。

4 [OK] をクリックする。

「リモート保守モードを開始しました。」と表示され、リモートマネジメントサービスが開始されます。サービス開始後は、工事担当者の指示に従って操作してください。

リモートマネジメントサービスの開始に失敗した場合は、「リモート保守モードの開始に失敗しました。」と表示されます。

5 サービスを停止する場合は、「リモート設定」の [停止] をクリックする。

「リモート保守モードを停止します。よろしいですか?」と表示されます。

6 [OK] をクリックする。

「リモート保守モードを停止しました。」と表示され、リモートマネジメントサービスが停止されます。

 **お願い**

- リモートマネジメントサービスご利用時は、本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。

 **お知らせ**

- 「リモート保守モードを開始しました。」と表示された場合でも、PPPoEの空きセッションがない場合など、リモートマネジメント接続ができない場合があります。
- 「リモート保守モードの開始に失敗しました。」と表示された場合は、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。
- 本商品に接続した電話機からの操作により、手動でサービスの開始/停止を行うこともできます。詳しくは、「取扱説明書」の「リモートマネジメントを利用する」を参照してください。

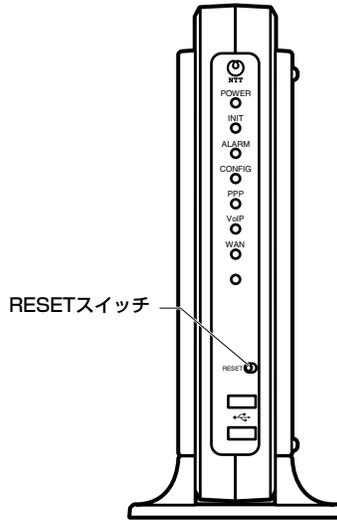
再起動する

再起動には、本商品のRESETスイッチを使う方法と、Webブラウザから行う方法があります。

RESETスイッチを使って再起動する

1 RESETスイッチを5秒以上押す。

本商品が再起動します。



Webブラウザから再起動する

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [再起動] をクリックする。

3 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

4 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動します。再起動中は「再起動待機中 ○秒後にトップ画面へ戻ります。再起動後、トップ画面が正常に表示されることを確認してください。」と表示されます。(○は秒数) 設定のトップ画面が表示されるまでお待ちください。



ワンポイント

- 再起動を中止するには
手順4で [キャンセル] をクリックします。

STOP お願い

- 再起動が完了するまで本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。
- Webブラウザから再起動したときに、再起動後に「Internet Explorerではこのページは表示できません」などと表示されることがあります。この場合は、しばらく待ってからWebブラウザの [更新] をクリックしてください。

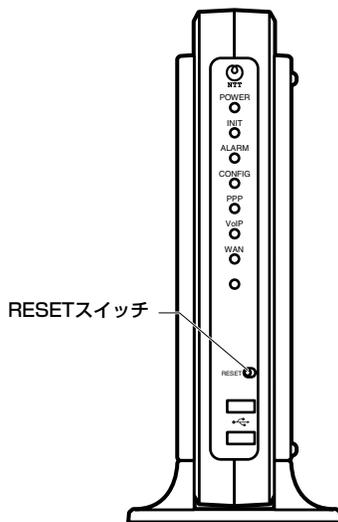
お知らせ

- 各種設定で [設定保存] をクリックする前に再起動をした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 通話中に再起動を行うと、通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動完了するまでIP電話サービスはご利用になれません。また、本商品のLANポート下部でIP端末をご利用の場合は、本商品の再起動完了後、IP端末を登録し直す必要があります。IP端末の操作方法は、各機器の取扱説明書などを参照してください。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

省エネモードを解除する

省エネモードでは、POWERランプ以外のランプを消灯します。省エネモードのときは、POWERランプが点滅します。
省エネモードを解除してランプの状態を確認するときは、RESETスイッチを押します。

1 RESETスイッチを1秒程度押す。



【ランプ説明】

	POWERランプ	POWERランプ以外
省エネモード中	緑（点滅）	消灯
省エネモード解除	緑（点灯）	ランプの状態（☛取扱説明書P1-9）

お知らせ

- 省エネモードは工事担当者が設定します。
- 省エネモードについては、当社のサービス取扱所にお問い合わせください。
- RESETスイッチは5秒以上押さないでください。RESETスイッチを5秒以上押すと本商品が再起動します。（☛P5-12）

「レポート表示」について

「レポート表示」メニューでは、以下の項目を表示できます。

■状態表示 (☛P6-2)

■ログ表示 (☛P6-4)

1
設定する

2
基本設定

3
ルータ設定

4
電話設定

5
保守

6
レポート表示

7
付録

本商品の現在の状態を示す情報を表示することができます。

(OG800Xaの例)

レポート表示 > 状態表示

状態表示

システムの各状態を表示します。

トップページへ戻る

- 基本設定
- ルータ設定
- 電話設定
- 保守
- レポート表示
 - 状態表示
 - ログ表示

[バージョン]	
プログラムバージョン	本装置のプログラムバージョンです。
[動作状態]	
回線1	空き
回線2	空き
回線3	空き
回線4	空き
回線5	空き
回線6	空き
回線7	空き
回線8	空き
LAN1	リンクダウン
LAN1スピード	
LAN2	リンクダウン
LAN2スピード	
LAN3	リンクダウン
LAN3スピード	
LAN4	リンクアップ
LAN4スピード	1G FULL
WAN	リンクアップ
WANスピード	1G FULL
UPnP CPグローバルアドレス	
[MACアドレス]	
LAN	

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [状態表示] をクリックする。

下記の項目が表示されます。

■ バージョン

[プログラムバージョン]

本商品で現在運用されているファームウェアのバージョンが表示されます。

■ 動作状態

[回線1] ～ [回線8]

回線の状態が表示されます。

[LAN1] ～ [LAN4]

LANポートのリンク状態が表示されます。

[LAN1スピード] ～ [LAN4スピード]

LANポートのリンク設定状態が表示されます。

[WAN]

WANポートの状態が表示されます。

[WANスピード]

WANポートのリンク設定状態が表示されます。

[UPnP CPグローバルアドレス]

UPnPの動作状態が表示されます。

■ MACアドレス

[LAN]

本商品のLAN側MACアドレスが表示されます。

[WAN]

本商品のWAN側MACアドレスが表示されます。

■ LANインタフェース

[IPアドレス]

本商品のLAN側IPアドレスが表示されます。

[マスク長]

サブネットマスクのマスク長が表示されます。

■ WANインタフェース

WANインタフェースの状態が一覧で表示されます。

- ・ **インタフェース名**
設定したインタフェース名が表示されます。
- ・ **接続状態**
接続状態が表示されます。
- ・ **IPアドレス**
インタフェースのWAN側IPアドレスが表示されます。
- ・ **VoIP種別**
設定されているVoIP機能の種別が表示されます。
- ・ **VoIP状態**
VoIP機能の動作状態が表示されます。



お知らせ

- OG800Xaでは、■動作状態は [回線1] ~ [回線8] の状態が表示されます。
- OG800Xiでは、■動作状態は [回線1 Bch1]、[回線1 Bch2]、[回線2 Bch1]、[回線2 Bch2]、[回線3 Bch1]、[回線3 Bch2]、[回線4 Bch1]、[回線4 Bch2] の状態が表示されます。
- OG400Xaでは、■動作状態は [回線1] ~ [回線4] の状態が表示されます。
- OG400Xiでは、■動作状態は [回線1 Bch1]、[回線1 Bch2]、[回線2 Bch1]、[回線2 Bch2] の状態が表示されます。

以下のログを表示することができます。

- 通話ログ (☞P6-5)
- 障害ログ (☞P6-6)
- システムログ (☞P6-7)
- セキュリティログ (☞P6-8)

通話ログ

本商品を経由して行った通話に関するログを表示することができます。

レポート表示>ログ表示

ログ表示

[機能設定] ログデータ保存

ログ種別 通話ログ 障害ログ システムログ セキュリティログ

トップページへ戻る

通話ログを表示します。
 <注意事項>
 ※ログは2000件まで保存され、2000件を超えた場合は古いログから上書きされます。

<通話ログフォーマット>
 登録日時 発信日時 通話開始日時 切断日時 物理ポート 発信信 切断源-呼切断理由 (SIP) キャリア種別 FAX通信
 装置電話番号 指定着信番号
 相手電話番号 指定着信番号
 最大遅延 最小遅延 平均遅延 ジッタ 受信数 破棄 受信エラー 入れ替え 紛失 送信数
 最大到着 最小到着 平均到着 ジッタ

05/09T15:03:37	05/09T15:02:54	**/**	**/**	**/**	05/09T15:03:37	A4	T	N=200	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
05/09T15:02:54	05/09T15:02:54	**/**	**/**	**/**	05/09T15:02:54	A3	T	N=200	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
05/09T15:02:54	05/09T15:02:54	**/**	**/**	**/**	05/09T15:02:54	A2	T	G=803	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
05/09T15:02:54	05/09T15:02:53	**/**	**/**	**/**	05/09T15:02:54	A1	T	N=200	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
05/09T15:02:26	05/09T15:02:17	**/**	**/**	**/**	05/09T15:02:26	A4	T	N=200	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [ログ表示] をクリックする。

通話ログが表示されます。



ワンポイント

- 通話ログを保存するには
[ログデータ保存] をクリックします。保存した通話ログは電源を切っても保存されています。



お知らせ

- 保存していない通話ログは、電源を切ると消去されることがあります。
- 最大2000件までのログが表示されます。
2000件を超えると、古いものから順に上書きされます。

障害ログ

本商品で発生した障害に関するログを表示することができます。

レポート表示>ログ表示

ログ表示

【機能設定】

再起動

ログデータ保存

ログ種別 障害ログ システムログ セキュリティログ

トップページへ戻る

障害ログを表示します。

<注意事項>
※ログは1000件まで保存され、1000件を超えた場合は古いログから上書きされます。

2011 05/09 15:41:21 ルータ起動

2011 05/09 15:41:21 テレフォニ起動

2011 05/09 15:39:08 ルータ起動

2011 05/09 15:39:08 テレフォニ起動

2011 05/09 15:00:04 ルータ起動

2011 01/01 00:01:02 テレフォニ起動

2011 05/09 14:20:45 ルータ起動

2011 05/09 14:20:45 テレフォニ起動

2011 05/09 14:16:33 ひかり電話オフィスタイプ(フレッツ 光ネクスト) 自動設定失敗(レスポンスエラー)

2011 05/09 14:16:32 ルータ起動

2011 05/09 14:16:32 テレフォニ起動

2011 05/09 14:14:47 ひかり電話オフィスタイプ(フレッツ 光ネクスト) 自動設定失敗(レスポンスエラー)

2011 05/09 14:14:46 ルータ起動

2011 05/09 14:14:46 テレフォニ起動

2011 05/09 14:13:19 ひかり電話オフィスタイプ(フレッツ 光ネクスト) 自動設定失敗(レスポンスエラー)

2011 05/09 14:13:18 ルータ起動

2011 05/09 14:13:17 テレフォニ起動

2011 05/09 13:39:16 ルータ起動

2011 05/09 13:39:16 テレフォニ起動

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [ログ表示] をクリックする。

3 「ログ種別」の [障害ログ] をクリックする。
障害ログが表示されます。



ワンポイント

- 障害ログを保存するには
[ログデータ保存] をクリックします。保存した障害ログは電源を切っても保存されています。



お知らせ

- 保存していない障害ログは、電源を切ると消去されることがあります。
- 最大1000件までのログが表示されます。
1000件を超えると、古いものから順に上書きされます。

システムログ

本商品で発生したイベントに関するログを表示することができます。

レポート表示>ログ表示

OG800Xa
GW装置

バージョン 機能設定 ログデータ保存

ログ種別 通話ログ 障害ログ システムログ セキュリティログ

システムログを表示します。
<注意事項>
※ログは1000件まで保存され、1000件を超えた場合は古いログから上書きされます。

2011/05/09 15:42:10 更新確認成功 (更新なし)

2011/05/09 15:42:06 WEB ブラウザログイン []

2011/05/09 15:41:41 ひかり電話オフィスタイプ(フレット 光ネクスト) SIPサーバ(WAN)登録成功()

2011/05/09 15:41:40 ひかり電話オフィスタイプ(フレット 光ネクスト) 追加情報取得成功

2011/05/09 15:41:38 時刻取得(設定時刻: 11/05/09 15:41:38)

2011/05/09 15:41:25 ひかり電話オフィスタイプ(フレット 光ネクスト) 追加情報取得開始

2011/05/09 15:41:25 ひかり電話オフィスタイプ(フレット 光ネクスト) 自動設定成功

2011/05/09 15:41:21 ルータ起動

2011/05/09 15:41:21 DHCPv6クライアント 成功 []

2011/05/09 15:41:21 DHCPv4クライアント 成功 []

2011/05/09 15:41:21 Analog 8ch

2011/05/09 15:41:21 テレフォニ起動

2011/05/09 15:41:21 ひかり電話オフィスタイプ(フレット 光ネクスト) 自動設定開始

2011/05/09 15:41:21 DHCPv6クライアント 開始

2011/05/09 15:41:21 DHCPv4クライアント 開始

2011/05/09 15:41:20 LAN4 リンクアップ:1G FULL

2011/05/09 15:41:20 LAN3 リンクダウン

2011/05/09 15:41:20 LAN2 リンクダウン

2011/05/09 15:41:20 LAN1 リンクダウン

2011/05/09 15:41:20 WAN リンクアップ:1G FULL

2011/05/09 15:39:50 WEB ブラウザログイン []

2011/05/09 15:39:10 LAN4 リンクアップ:1G FULL

2011/05/09 15:39:08 ルータ起動

2011/05/09 15:39:08 LAN4 リンクダウン

2011/05/09 15:39:08 Analog 8ch

2011/05/09 15:39:08 テレフォニ起動

2011/05/09 15:39:08 ひかり電話オフィスタイプ(フレット 光ネクスト) 自動設定開始

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [ログ表示] をクリックする。

3 「ログ種別」の [システムログ] をクリックする。

システムログが表示されます。



ワンポイント

- システムログを保存するには
[ログデータ保存] をクリックします。保存したシステムログは電源を切っても保存されています。



お知らせ

- 保存していないシステムログは、電源を切ると消去されることがあります。
- 最大1000件までのログが表示されます。
1000件を超えると、古いものから順に上書きされます。

セキュリティログ

本商品が記録したセキュリティに関するログを表示することができます。

OG800Xa
GW装置

バージョン 詳細表示

再起動

レポート表示 > ログ表示

ログ表示

[機能設定]

ログデータ保存

ログ種別

通話ログ 障害ログ システムログ セキュリティログ

トップページへ戻る

セキュリティログを表示します。

<注意事項>
※ログは100件まで保存され、100件を超えた場合は古いログから上書きされます。

◎ 基本設定

◎ ルータ設定

◎ 電話設定

◎ 保守

◎ レポート表示
◎ 状態表示
◎ ログ表示

2011 05/09 15:48:06 NAT UDP 118.177.6.202 5106 118.177.125.1 53790

2011 05/09 15:47:52 NAT UDP 118.177.6.202 5104 118.177.125.1 53788

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(←P1-2) の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [ログ表示] をクリックする。

3 「ログ種別」の [セキュリティログ] をクリックする。

セキュリティログが表示されます。



ワンポイント

- セキュリティログを保存するには
[ログデータ保存] をクリックします。保存したセキュリティログは電源を切っても保存されています。



お知らせ

- 保存していないセキュリティログは、電源を切ると消去されることがあります。
- 最大100件までのログが表示されます。
100件を超えると、古いものから順に上書きされます。

ユーザ設定記入シート

以下のページをプリントし、保守のための資料として設定内容を記入して、大切に保管してください。

ユーザ用パスワードは、お客様の個人情報となります。記入された際は、お取り扱いにご注意ください。

【基本設定】 → 【装置名称設定】

装置設定		初期値
装置名称	[]	GW装置

【基本設定】 → 【ユーザ用アカウント設定】

ユーザ用アカウント設定		初期値
ログインID	user (変更できません)	user
パスワード	[]	user

【基本設定】 → 【時刻設定】

自動取得設定		初期値
取得機能	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効
サーバアドレス設定方法	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動	自動
NTPサーバ	[]	-

【ルータ設定】 → 【リンク設定】

リンク設定			初期値
LAN1ポート	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 100Mbps全二重 <input type="radio"/> 100Mbps半二重 <input type="radio"/> 10Mbps全二重 <input type="radio"/> 10Mbps半二重		自動
LAN2ポート	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 100Mbps全二重 <input type="radio"/> 100Mbps半二重 <input type="radio"/> 10Mbps全二重 <input type="radio"/> 10Mbps半二重		自動
LAN3ポート	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 100Mbps全二重 <input type="radio"/> 100Mbps半二重 <input type="radio"/> 10Mbps全二重 <input type="radio"/> 10Mbps半二重		自動
LAN4ポート	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 100Mbps全二重 <input type="radio"/> 100Mbps半二重 <input type="radio"/> 10Mbps全二重 <input type="radio"/> 10Mbps半二重		自動
WANポート	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 100Mbps全二重 <input type="radio"/> 100Mbps半二重 <input type="radio"/> 10Mbps全二重 <input type="radio"/> 10Mbps半二重		自動

【ルータ設定】 → 【WANインタフェース設定】 → 【WAN】

基本設定		初期値
インタフェース名	[]	WAN
IPv4アドレス設定		
アドレス設定方法	<input type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 無効	自動
IPアドレス	[]	—
マスク長	[]	—
デフォルトゲートウェイアドレス	[]	—
プライマリDNSサーバアドレス	[]	—
セカンダリDNSサーバアドレス	[]	—
DHCPv4経路情報ルーティング	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効
IPv6アドレス設定		
アドレス設定方法	<input type="radio"/> OPD <input type="radio"/> ORA <input type="radio"/> 無効	PD
プライマリDNSサーバアドレス	[]	—
セカンダリDNSサーバアドレス	[]	—
セキュリティ設定		
ステルスモード	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効
ステートフル・インスペクション	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効
攻撃検出	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効

【ルータ設定】 → 【ルーティング設定】 → 【IPv6ルーティング】

ダイナミックルーティング設定		初期値
ダイナミックルーティング機能	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	無効
送信設定	<input type="radio"/> 送信する <input type="radio"/> 送信しない	送信する
受信設定	<input type="radio"/> 受信する <input type="radio"/> 受信しない	受信する
スタティックルーティング設定		
スタティックルーティング機能	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効

【ルータ設定】 → 【DNS設定】 → 【DNS】

ProxyDNS設定				初期値
ProxyDNS機能	有効（固定値）			有効
デフォルト問い合わせ先				
DNSv4問い合わせ	<input type="radio"/> PPP1 <input type="radio"/> PPP4	<input type="radio"/> PPP2 <input type="radio"/> PPP5	<input type="radio"/> PPP3 <input type="radio"/> WAN	PPP1
DNSv6問い合わせ	<input type="radio"/> WAN（固定値）			WAN

【ルータ設定】 → 【アドレス変換設定】 → 【NAT】

NAT設定		初期値
PPP1	<input type="checkbox"/> 有効	有効
PPP2	<input type="checkbox"/> 有効	有効
PPP3	<input type="checkbox"/> 有効	有効
PPP4	<input type="checkbox"/> 有効	有効
PPP5	<input type="checkbox"/> 有効	有効
WAN	<input type="checkbox"/> 有効	有効

【ルータ設定】 → 【VPN設定】 → 【L2TP VPN】

機能設定				初期値
L2TP VPN機能	<input type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> 無効		無効
基本設定				
インタフェース	<input type="radio"/> PPP1 <input type="radio"/> PPP4	<input type="radio"/> PPP2 <input type="radio"/> PPP5	<input type="radio"/> PPP3 <input type="radio"/> WAN	WAN
ローカルIPアドレス	[]			—
リモートIPアドレス	[]			—
プライマリDNSサーバ	[]			—
セカンダリDNSサーバ	[]			—
プライマリWINSサーバ	[]			—
セカンダリWINSサーバ	[]			—
MTU値	[]			1408
事前共有鍵	[]			—
登録テーブル				
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			

※「登録テーブル」欄が足りない場合は、このページを複数プリントしてご使用ください。

【ルータ設定】 → 【VPN設定】 → 【PPTP VPN】

機能設定				初期値
PPTP VPN機能	<input type="radio"/> 有効	<input type="radio"/> 無効		無効
基本設定				
インタフェース	<input type="radio"/> PPP1 <input type="radio"/> PPP4	<input type="radio"/> PPP2 <input type="radio"/> PPP5	<input type="radio"/> PPP3 <input type="radio"/> WAN	WAN
ローカルIPアドレス	[]			-
リモートIPアドレス	[]			-
プライマリDNSサーバ	[]			-
セカンダリDNSサーバ	[]			-
プライマリWINSサーバ	[]			-
セカンダリWINSサーバ	[]			-
登録テーブル				
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			
No.	[] (1 ~ 30)			
ユーザ名	[]			
パスワード	[]			

※ 「登録テーブル」欄が足りない場合は、このページを複数プリントしてご使用ください。

【ルータ設定】 → 【QoS設定】 → 【帯域制御】

機能設定		初期値
帯域制御機能	<input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 自動 (5Mbps) <input type="radio"/> 自動 (25Mbps)	無効
優先度4	[] Mbps	1000 Mbps
優先度3	[] Mbps	1000 Mbps
優先度2	[] Mbps	1000 Mbps
優先度1	[] Mbps	1000 Mbps
ベストエフォート	[] Mbps	1000 Mbps

【ルータ設定】 → 【Wake on LAN設定】

Wake on LAN設定		初期値
Wake on LAN	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	有効
受信インタフェース	<input type="radio"/> PPP1 <input type="radio"/> PPP2 <input type="radio"/> PPP3 <input type="radio"/> PPP4 <input type="radio"/> PPP5 <input type="radio"/> WAN	WAN
受信ポート番号	[]	7779

【電話設定】 → 【メディア変更設定】

メディア変更設定		初期値
メディア変更動作	<input type="radio"/> 常に許容する <input type="radio"/> 発信時のみ許容しない <input type="radio"/> 常に許容しない	常に許容する

©2018 NTEAST・NTTWEST



本3181-2(2018.3)
OG400X/800X トリセツ〈1〉